第２部　ボランティア・市民活動の推進

Ⅰ　令和２年度事業総括

第１　運営方針

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、年度当初から市民活動支援センターの営業時間の短縮や座席数の削減など、利用を大きく制限し、事業の中止や縮小も余儀なくされました。また、感染防止対策に努め、利用者へマスク着用や手指消毒の徹底を呼び掛けながら運営を行いました。

このような未曾有の状況下ではありましたが、方法や企画を工夫し、オンラインを活用したイベントの実施など、「２０１８～２０２２市民活動支援センター中長期運営方針」に基づき、多様な個人・団体・企業などと協働しながら、運営委員会と共に開かれたセンター運営の継続に努めました。

同運営方針が掲げる「市民参画による住み続けたいまちづくり」及び「未来に希望の持てる社会の実現」に向けて、多様な市民活動を支援する拠点として協働のパートナーとなるよう、情報の有効活用、参加の仕組みづくり、コーディネーション機能、分野を越えた協働、人材の育成・発掘など、中間支援組織として求められる機能や役割を果たし、同時に必要な財源の確保の工夫を進めることができました。

運営委員会で検討された社会的インパクト評価の手法を用いた「中長期運営方針」の成果指標にそって、センター及び各コーナーでの事業運営が、どのような成果が得られているのかを具体的に示す工夫はまだ十分とは言えませんが、引き続き、そこで得られた成果や課題を整理し、センター機能の充実を図っていきます。

第２　重点事業総括

１　中長期運営方針の５本の柱に対応したセンター運営

地域人材養成講座では、若い世代の新たな人材発掘に力を入れ、就職活動と市民活動をリンクした企画を初めて実施しました。また、「えんがわカフェ」や「ちょうふこども協力隊」も継続し、人材の発掘・育成に取り組みました。

また、多様な情報発信を行うため、新たに公式 Twitter を開設し、活動の紹介や寄付募集など、様々な情報を発信しました。

今年度のえんがわファンドは、新型コロナウイルスの影響を受け、活動を自粛していたり、見通しが立てられなかったりする団体が多く、申請数が減少したため、市内４団体、約３６万円の助成を行うにとどまりました。従来行っていたえんがわファンド助成先団体や市内活動団体への訪問や見学は、思うように行えませんでしたが、えんがわだより特集記事の取材や「まち活フェスタ」「えんがわフェスタ」などの準備の過程で、団体間の交流やセンター職員との関係構築が進みました。

各コーナーも同様に、地域の諸団体や個人、地域福祉コーディネーターなどの調布社

協組織の他部署と工夫を凝らしながら連携を深めることができました。

また、災害ボランティア養成連続講座の企画ができず、開催することができませんでした。しかし、いつ起こるかわからない災害に備えるため、コロナ禍でも対策を講じる工夫が必要です。

２０２２年までの５か年の中長期運営方針の後半を迎え、その成果を確認しつつ、次の中長期運営方針の策定に着手します。

２　事業を通じての人材の育成、連携強化、支援の充実

職員の相談支援スキルアップのため、個々の職員が研修に参加しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、実際の活動への参加や見学など思うように行えなかった点は今後の課題です。

「えんがわフェスタ２０２１」は、初めてのフルオンライン開催となりましたが、多くの市民の参加がありました。海外にルーツを持つ方も複数参加し、字幕や通訳など、円滑なコミュニケーションを補助するための工夫や取り組みを行いながら、交流を図り、新しい出会いが生まれました。

また、サポーター会員の拡大に向けた取り組みも、感染防止の観点から実施ができませんでした。今後も引き続き多彩な市民活動をサポートしていけるよう、さらに市民活動に対する共感者（サポーター）を増やすための工夫を行っていきます。

様々な機会を逃すことなく、新たな人材の発掘・育成を心掛け、多くの団体、個人との連携をより一層深めながら、「コロナに負けない」ための工夫を活かし調布の市民活動を応援していきます。

Ⅱ　個別事業

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	市民活動支援センターの受託・運営			市	○

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	ボランティア活動推進	会寄雑基	市		○

第１　センター及びボランティアコーナー（ブランチ）の運営

１　市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、年度当初は書面開催となることもあったが、オンラインツールを活用するなど工夫しながら、コロナ禍でも年１１回の運営委員会を開催し、センター事業などについて協議を行った。

○ センター利用者アンケート調査を実施し、意見を参考にセンターレイアウトの改善を行った。また、改善した点は掲示などで報告し、意見が反映される実感を持っていただけるよう工夫した。

○ 地域の課題解決に向けた仲間づくりを目的とした市民交流事業「えんがわフェスタ」と「まち活フェスタ」は、感染防止の観点から初のオンライン開催としたが、新たな人材や団体との連携も生まれ、まちの活性化や人材の発掘・育成につながるイベントとなった。

○ ５ヶ年の市民活動支援センター中長期運営方針３年目として、昨年度に引き続き「運営委員会で取り組む４つのテーマ」を推進した。えんがわ文庫の立ち上げ、講座やイベントの企画実施など、具体的なアクションを実施した。

①えんがわフェスタで多様な市民参加を！
②市民が使いやすいセンターに！
③えんがわカフェで新たな出会いと学びの場を！
④えんがわファンドで市民活動支援と寄付文化の醸成を！

実績等

（1）市民活動支援センター運営委員会　任期：平成３１年４月１日～令和３年３月３１日

氏　名	選出区分	主な活動、所属など
壽賀　一仁（委員長）	市民公募	公募委員・一般社団法人あいあいネット
水田　征吾（副委員長）	ボランティア	個人ボランティア
村上　むつ子	市民活動団体	Ｇｌｏｂａｌ調布！
嶋田　浩一	市民活動団体	こくりょう子ども食堂わいわいプロジェクト
新國　政和	企業	さくらツーリスト株式会社

枝見　太朗	学識経験者	一般財団法人富士福祉事業団
平澤　和哉	市民活動団体	ＮＰＯ法人ちょうふこどもネット
児島　秀樹	市民活動団体	グッドモーニング調布！
横山　真理	市民活動団体	こんぺいとう子育てひろば
石井　美津子	市民活動団体	ＮＰＯ法人調和ＳＨＣ倶楽部
梶井　文子	関係機関	東京慈恵医科大学医学部看護学科
熊谷　紀良	関係機関	東京ボランティア・市民活動センター
市瀬　秀	行政関係	調布市生活文化スポーツ部 協働推進課長
髙木　直	社協関係	市民活動支援センター長

(2) 令和２年度　市民活動支援センター運営委員会開催状況

第１回	４月２日（木） （書面開催）	【協議事項】 ２０２０年度えんがわファンド選考委員（案）について
第２回	５月１９日（火） （書面開催）	【審議事項】 令和元年度事業報告書及び決算報告書（案）について
第３回	６月１２日（金） （オンライン開催）	【審議事項】 ２０１９年度えんがわファンド助成期間の延長について ２０２０年度えんがわファンド募集要項の改正について 【確認事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマの進め方について ２０２０年度 市民活動支援センタースケジュールについて
第４回	７月１６日（木）	【協議事項】 えんがわフェスタの実施時期、内容等について ２０１９年度えんがわファンド助成期間の延長について 【報告事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について まち活フェスタについて 公式 Twitter の運用開始について
第５回	９月１１日（金）	【協議事項】 えんがわフェスタについて 【報告事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について えんがわファンド２０２０申請団体と今後の予定について 調布 STAYHOME ボランティアについて チャリティーウォーク実施予定について まち活フェスタについて

第６回	１０月９日（金）	【協議事項】 えんがわフェスタについて 【報告事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について えんがわファンド２０２０選考結果について 調布 STAYHOME ボランティア実施結果報告 ちょうふチャリティーウォーク実施予定について まち活フェスタについて チャレンジ！こども協力隊について
第７回	１１月１３日（金）	【協議事項】 えんがわフェスタについて 【報告事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について ちょうふチャリティーウォーク実施報告 チャレンジ！こども協力隊について
第８回	１２月１７日（木）	【審議事項】 市民活動に関する調査【個人編】【団体編】の調査票について 【協議事項】 えんがわフェスタについて 【報告事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について まち活フェスタについて その他センター主催イベントについて
第９回	１月２２日（金） （オンライン開催）	【審議事項】 ２０２１年度えんがわファンド募集要項について 【協議事項】 えんがわフェスタについて 【報告事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について まち活フェスタについて 市民活動に関する調査について 利用者アンケートからのセンター内改善進捗と課題について

第 10 回	２月１９日（金） （オンライン開催）	【審議事項】 ２０２１年度えんがわファンドについて 令和３年度事業計画について 【協議事項】 えんがわフェスタについて 【報告事項】 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について まち活フェスタについて
第 11 回	３月２５日（木）	【審議事項】 令和３年度予算について 【協議事項】 えんがわフェスタ振り返りについて 【報告事項】 令和３年度事業計画について 運営委員会で取り組む４つのテーマ進捗について

分析・課題

〇新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、④えんがわファンドで市民活動支援と寄付文化の醸成を！は取組みができなかったが、ほか 3 つのテーマについては、具体的なアクションを進めることができた。

〇②市民が使いやすいセンターに！では、えんがわ文庫を立ち上げ、市民参加で誰もが気軽に訪れることのできるコミュニティスペースの実現に向けて準備を進めている。次年度 5 月には完成する予定。

〇具体的な取組みが行えなかった④えんがわファンドで市民活動支援と寄付文化の醸成を！は、コロナ禍であっても地域の中で多様な活動を支援するため、サポーター会員増加の施策を検討し、実行することが課題となっている。

２　市民活動支援センター利用者会議の開催

結果の概要

〇新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、利用者を集めての会議は実施せず、アンケート調査を行った。

分析・課題

〇アンケート用紙は２３８名のセンター利用者に配布し、１８２名から回答をいただくことができた。（回収率７６．５％）

〇センター活動スペースの「はばたき」が、無料で集まれる場所として、活用されていることや、多彩な団体が利用していることで、出会いの場としても意義のある場となっていることがを確

認できた。

〇仕切りのないスペースのため、活動の目的や人数などによって、他団体の活動音が気になってしまうといった意見や学習を目的とした利用者からは、スペースの拡大を求める声が上がっている。

〇活動時のインターネット利用が一般的になりつつある中、Wi-Fi 接続が１時間ごとに切れてしまうことについて、改善の要望があった。その他、照度の問題など、指定管理業者との調整が必要となる要望が複数あったため、センターから陳情書の提出を行い、改善に向けての調整を行っている。

〇アンケート結果から、相談業務をはじめとするセンターの機能が周知できていないという課題が見えたため、掲示や案内の見直しを行い、利用者への再周知を図った。

〇引き続き、日ごろの業務の中で利用者の意見を集め、センター運営に活かしていく。

３　市民活動支援センターサポーター会員制度

結果の概要

〇地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体などを「資金」と「つながり」で助成する「えんがわファンド」の原資として活用した。

〇新型コロナウイルスの影響を受け、さらなる共感者の獲得に向けた市内企業や団体への訪問は実施できなかった。

実績等

加入口数	R2	R1
一口／3,000 円	90	121
合計額（円）	270,000	363,000

サポーター会員数	R2 実数	R1 実数
団体	51	64
個人	21	44
合計	72	108

新規・継続内訳	R2 実数	R1 実数
新規サポーター	4	24
継続サポーター	68	84
合計	72	108

分析・課題

〇継続サポーター会員への通知やホームページ、Twitter など活用し、共感者を増やすための試みを行ったが、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、センター来館者が減少したことや団体の活動自粛などもあり、サポーター数、加入口数、新規、継続サポーター数いずれも減少となった。

〇今後は、さらなるＰＲや広報媒体を工夫し、今年度実施ができなかった企業などへの周知も積極的に行い、実績増の取り組みを行っていく。

４　市民交流事業の実施

（１）えんがわフェスタ２０２１の開催

結果の概要

〇市民活動支援センター運営委員会で協議を行い、「調布のちょっと先の未来を描く」ためのフルオンラインイベントを実施した。

実績等

名称	調布のちょっと先の未来を描こう		
目　　的	新型コロナウイルスの流行で、以前のように人と接することが難しくなって一年。外出の自粛や制限で職場や学校の友人との接点が減り、孤立や孤独を感じたり、必要な情報や助けが得られず苦労した人も少なくない。 しかし同時に、そうした経験を経て、これまできっかけがなかった自宅近くで新たなつながりが生まれたという話も耳にしている。 そこで、今回のえんがわフェスタでは、３つの分科会に分かれ、コロナ禍での新たな発見（課題または解決策）を持ち寄り、コロナ後の地域のつながりに活かしていくアイデアを育むことを目的とする。		
日　　時	令和３年２月２７日（土）午後１時３０分～午後３時３０分）		
会　　場	オンライン（Ｚｏｏｍ）		
参加者数	５３名		
内　　容	分科会①　多文化共生 分科会②　学生の自習スペース不足 分科会③　子育て		
協　　力	調布市国際交流協会		
主　　催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

分析・課題

〇コロナ禍の先の調布の明るい未来をテーマに３つの分科会に分かれて情報共有や意見交換を行い、「Bridge to self-navigate」（自分で動けるようになるための橋渡し役）となるような身近な場が地域の中に増えることで、生活のハードルが下げられることなど、未来に繋がるキーワードや新たなつながりのヒントを発見できた。

〇海外にルーツを持つ方々にも参加いただき、通訳や字幕などを初めて活用し、円滑なコミュニケーションが行えるよう工夫して実施することができた。

〇１０代から７０代まで幅広い世代の参加があった。実施後のアンケート結果の満足度が非常に高く、とても盛況であった。

〇各分科会が非常に盛り上がった一方で、時間配分が短く、話し足りないという意見もあり、課題となった。

〇えんがわフェスタレポートを作成し、市民活動支援センターホームページやTwitterを活用し、当日参加できなかった方々へも広く情報を発信した。

（２）第７回まち活フェスタ

結果の概要

〇市民活動団体や活動している個人の方々に、実行委員に参画していただき、広く出展団体を募集した。コロナ禍での開催のため、どのような形で開催を行っていくかを実行委員会で検討・協議し、YouTube 配信をベースにしたオンラインでの開催とした。

〇開催に向けて、準備会を１回、実行委員会を６回、出展者会議を２回開催し、オンライン開催に向けての準備と出展団体への説明の場を設けた。

〇初めてのオンラインでの開催であったが、実行委員の方々のち密な準備と配信のリハーサルによって、大きな混乱もなく実施できた。

〇市民活動支援センターを配信拠点およびメイン会場として、オンデマンド（事前収録）とライブ配信、メイン会場でのインタビューを交えた配信を行った。

〇電気通信大学鉄道研究会は、あくろす館内会議室１で、プラレールを設置し、まち活の配信以外にも独自の配信を行った。

〇調布市外の方の視聴もあり、調布市内の活動を広く知ってもらうことができた。

実績等　＜第７回調布まち活フェスタ・当日＞

開催日	令和３年３月７日（日）午前１０時～午後３時
会場	調布市市民プラザあくろす（配信拠点） 深大寺地域福祉センター（中継先） 調布市青少年ステーションＣＡＰＳ（中継先） 若松屋（中継先）
視聴者数	２，７１３件（当日視聴１，８５９件、見逃し配信視聴８５４件）
参加団体数	２２団体
協力	Withgrow・商工会青年部・ＭＥＣＰ・調布市協働推進課 （インフラ整備、司会進行、広報など）
協賛企業	市内１４社（前年度中止のため今年度に繰り越し）
実行委員	１０名
主催	第７回調布まち活フェスタ実行委員会 調布市市民活動支援センター
後援	調布市・調布市教育委員会
目的	多くの市民に多彩な市民活動に触れてもらう機会とするとともに、市民活動団体同士の交流の場として、市民活動の活性化を目的とする。
実行委員会開催	６回開催
出展者会議開催	２回開催
内容	〇実行委員会企画 ・開閉会式・協賛企業紹介・参加団体インタビュー ・キーワードによる景品の提供・まち活アワード発表 〇オンデマンド出展（事前収録動画を配信）

	・調布市内大学連携事業紹介・ほっとれーる紹介・商工会青年部紹介・白百合女子大マスールハローキティボランティア紹介・ボーイスカウト調布第３団紹介・フードバンク調布紹介・多文化ハーモニー東京多摩紹介・しばさき彩ステーション紹介・フットの会紹介・地区協議会紹介 〇ライブ出展 ・演奏；調布さくらウィンドオーケストラ（深大寺地域福祉センター）・電気通信大学鉄道研究会・市内飲食店紹介（若松屋） ・白百合女子大やたゼミ・バンド演奏；「ＬＡＣＫ」（ＣＡＰＳ） ・バンド演奏；ミス調布×高校生バンド「Ｐｒｉｍａ Ｄｏｎｎａ」（ＣＡＰＳ）・バンド演奏；「地鳴」（ＣＡＰＳ）・バンド演奏；「ＴｈｅＢｌｕｅＰｅｎｃｉｌｓ」（ＣＡＰＳ）・演奏；ＭＥＣＰ事務局 with１００万人のクラシックライブ・東日本大震災慰霊祭実行委員会・調布の歌を知ろう「今日の日はさようなら」

分析・課題

〇コロナ禍におけるイベントの実施方法としてのチャレンジであったが、大きなトラブルもなく終了することができた。

〇実行委員に若手のメンバーも増え、新たな人材育成にもつながるとともに、実行委員会同士の交流も深めることができた。

〇次回の開催に向けて、会場開催ができるとしてもオンラインによる配信の必要性を強く感じられた。

５　ボランティアコーナー（ブランチ）の運営

結果の概要

〇身近な地域に密着した相談・活動の拠点としてコーナーを設置している。

〇地域の方々によって運営されている野ヶ谷の郷を含め７拠点のブランチを運営しており、小島町コーナー（月～金）、西部コーナー、染地コーナー（火～土）の３拠点が週５日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、野ヶ谷の郷の４拠点が週３日（火、木、土）開所となっている。

（１）　小島町コーナー

①　ボランティア活動室利用者会議の開催

実績等

　毎年、活動室のルール再確認と、活動室の定期利用、棚などの希望を確認し、団体間の調整を行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会議は開催しなかった。次年度の希望調査については、活動室を利用している２２団体に、書類にて確認を行った。

結果の概要

〇活動室の利用希望日について、団体間の調整を行った。

分析・課題

〇活動室を利用する団体が、減少傾向にある。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言中は、活動室の利用について、利用自体の休止や人数制限などが設けられた。また、活動ができなかった期間が長く続いた影響や、メンバーの高齢化もあり、年度内で活動を中止したり、活動回数を減らしたりする団体もあった。しかし、その一方で、新規の登録団体も３団体あったため、今後も活動室を利用する団体の裾野を広げ、利用団体が増えていくよう、広報などに力を入れたい。

（２）菊野台コーナー

実績等

①第２９回菊野台ボランティアまつり

５月２４日（日）の開催を目指し準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止となった。

②菊野台地域のつどい（小地域交流事業）

茶話会と称し、実行委員が集まり開催について検討したが、開催には至らなかった。

③菊野台ボランティア連絡会

例年、次年度のボランティアまつり開催について話し合いが行われるが、感染症拡大防止の観点から開催できなかった。

④アロマ入門講座

開催目的	社会福祉協議会の案内や周知に加え、アロマテラピーを用いコロナ禍での閉塞感をぬぐい、交流の機会を設ける。
開催日時	①７月２５日（土）　②１２月１９日（土）
会　場	菊野台地域福祉センター
内　容	①虫よけスプレー　②ボディクリーム
参加者数	①１４人　②１６人

⑤みんなでウクレレを弾こう！

開催目的	自粛期間中に高まった、「ウクレレを始めたい」という声に応え、社会福祉協議会の事業案内や周知も行う。音楽に親しむ機会を提供することで、コロナ禍の閉塞感を和らげ、交流の機会を設ける。自主活動グループとして活動できるよう支援する。
開催日時	①１１月２１日（土）②１２月５日（土）③１月１４日（木）④１月１６日（土）⑤１月２３日（土）⑥１月３０日（土）⑦２月２０日（土）⑧３月２０日（土）
会　場	菊野台地域福祉センター
内　容	ウクレレ演奏の基礎。合奏。
参加者数	①８人　②８人　③５人　④４人　⑤４人　⑥４人　⑦１３人　⑧１５人

⑥１０の筋力トレーニング（１０筋木曜会）

開催目的	外出の機会が減った高齢者のフレイル予防のため、地域包括支援センター至誠しばさきと連携し、１０の筋力トレーニング新団体立ち上げの支援を行う。
開催日時	１月１４日、２８日（木）２月４日、１８日、２５日（木）３月４日、１１日、１８日、２５日（木）
会　場	菊野台地域福祉センター　第１集会室
内　容	１０の筋力トレーニング
参加者数	毎回６～７人

⑦菊野台通信の発行

結果の概要

○新型コロナウイルス感染拡大にともない「第２９回菊野台ボランティアまつり」が中止となり、緊急事態宣言が発動され、各団体や機関が活動を模索する中、今まで培ってきたつながりを少しでも継続し、互いの存在を感じることができるよう５月より計７回発行した。

分析・課題

○状況が長期化する中で、団体として集まる機会が少なくなったことを補うには十分とは言えないため、更なる検討が必要。

⑧地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

○地域包括支援センターなど、地域のさまざまな団体との連携がとりやすくなり、問題に対して多方面からの支援を行えるようになった。

実績等

○初めてのスマホ講座　７月２２日（水）

○地域連携会議　６月２６日（金）８月２１日（金）１０月２３日（金）１２月２５日（金）３月２３日（火）

分析・課題

○初めてのスマホ講座は、地域の高齢者のニーズに合った企画だが、継続して相談できる取り組みが必要である。

○「みんなでウクレレを弾こう！」「１０の筋力トレーニング」の新団体立ち上げ支援を協力して行うことで、多世代交流や、地域の課題を掘り起こすことができた。

（３）富士見コーナー

結果の概要

○令和元年１１月から令和２年３月まで富士見地域福祉センター改修工事のため休止していた

が、令和２年４月よりコーナーを再開した。

〇コロナ禍での活動制限のストレスや不安、世間話をするために来所する人が多かった。必要があれば関係機関につなぎ、その後も声をかけ見守っている。

〇富士見コーナーを拠点とした１３グループのボランティア、市民活動団体、ひだまりサロンが活動した。

〇感染症拡大防止の観点から、６月に予定していた地域の住民が参加できる世代間交流の場「富士見ふれあいのつどい」と、１月実施予定の小地域交流事業パート２「３世代で楽しむスポーツと音楽と遊び」を中止した。

〇居場所として立ち寄るシニア男性の割合が比較的多く、コーナーが地域の情報交換の場の１つとして機能している。

〇野外で、三密を避けて実施できるボランティア「わんわんパトロール」のＰＲに協力した。

分析・課題等

〇ひだまりサロンが地域に増えていく中、既存のボランティアグループの統廃合がゆっくりと進んでいる。

〇見守りが必要となる高齢者が増えてきていることを地域住民自身が真剣に捉え、安心して暮らせるまちづくりのために、住民の手による自助活動や集う場づくりの必要性を感じる。

〇地域包括支援センター、地域福祉コーディネーターと連携をとりながら、地域全体で互いに見守りあう体制づくりに向けて、より現実に即した具体的な提案を行い、ボランティアグループとともに支援していく必要がある。

実績等

①令和２年度　富士見ふれあいのつどい（小地域交流事業を兼ねる）中止

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年１回開催している。
日　時	中止
会　場	富士見地域福祉センター（予定）

②１００万人のクラシックライブ

日　時	９月３日（木）１公演目　午後４時３０分～　２公演目午後５時００分～
会　場	覚證寺
内　容	子どもたちに音楽を届けるプロジェクト 青嶋 祥代さんによるヴァイオリン演奏 高見 秀太朗さんによるピアノ演奏
参加者	約３０人
主催者	一般財団法人　１００万人のクラシックライブ

主催者が子ども食堂での１００万人のクラシックライブ開催を希望され、覚證寺との連絡調整

を行い、開催に向けて協力した。

③地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

〇地域福祉コーディネーターとの連携により、地域のニーズや課題の掘り起こし、その後のこまやかな支援に向けて、協働、協力できた。

〇地域の声を拾い上げ、福祉活動の推進を支援した。

実績等

〇「地域の居場所を考える会」の広報に協力した。

〇まちの「つながり」プロジェクトに参加した。

〇ちょうふの里地域包括支援センターの事業に協力した。

〇フードドライブ、フードパントリーの食品収集や広報に協力した。

〇こども食堂かくしょうじの運営や周知について協力した。

④認知症サポーター養成講座

開催日時	９月１６日（水）２～３時間目
主　催	地域包括支援センターちょうふの里　　調布市社会福祉協議会
会　場	石原小　多目的室
内　容	認知症の高齢者役を児童が道案内する体験型寸劇と、座学による講座
参加者数	地域包括支援センターちょうふの里　３人　社協２人　教諭２人 ４年生児童７４人

（４）染地コーナー

結果の概要

〇染地コーナーを拠点に活動している１９のボランティア、市民活動団体、ひだまりサロンを中心に、調布市立第三中学校の生徒や吹奏楽部の保護者、ＯＢなど若い世代も巻き込み、地域住民の世代間交流の場として、２３年継続してきた「ボランティアまつり染地」だが、緊急事態宣言下で、開催を断念した。

また、「ボランティアまつり染地」のスタッフも地域住民とともに楽しむことを目的とした「小地域交流事業パート２」も感染拡大防止の観点から開催を断念した。

今後、これまで築き上げてきた「地域のつながり」をどうやって継続していくのかを地域住民と検討していく必要がある。

〇緊急事態宣言の発出により、染地地域福祉センターが利用休止となり、交流の場を失った高齢者が不安を抱え、人のぬくもりや話し相手を求めてコーナーを訪ねてくることが増えた。

コロナ禍にあって、より独居高齢者の孤立が深刻化しており、あらためて、コーナーの在り方について柔軟な対応の必要性を強く感じた。

〇ボランティアコーナーは、ボランティア・市民活動のための場に限らず、高齢者が気軽に立ち

寄り、相談できる窓口、情報交換の場として広く開かれた、居場所を目指したい。

〇１０月２２日（木）、慈恵医大ボランティア論の講義に講師として出席し、コーナーで活動する団体の紹介を行った。１０月２４日（土）には、講義を受けた学生のボランティア体験先として、２つのボランティア団体に受け入れ依頼し、１１月５日（木）に大学で行われた学生の体験発表会にも参加した。

〇看護師、保健師を目指す学生が様々なボランティア体験を通し、多様な経験を積んだ多くの人々と出会い、考え方を学ぶことで、視野が広がり今後の仕事に活かせることを期待したい。

〇２０１９年１０月の台風１９号で立ち上がった調布ＳＰＶ（調布災害フォトボランティア）が、浸水被害にあった写真・アルバム９軒分の洗浄を全て終え、依頼者に返却することができた。今後の活動について意見交換を重ねた結果、自主グループとして、写真・アルバム洗浄をメインに週２回の活動を継続することになった。今後も、災害ボランティア活動団体として機能できるよう支援したい。

実績等

①高齢者の見守り≪バリアフリー映画体験会≫

開催目的	高齢者のゆるやかな見守り
開催日時	①７月１０日②８月１４日③９月１１日④１０月９日⑤１１月１３日⑥１２月１１日 ⑦令和３年２月１２日⑧３月１２日 月１回　第２金曜日　午後１時３０分～３時３０分
会　場	染地地域福祉センター　第１・２集会室
内　容	男はつらいよシリーズを全巻観よう！！　山田洋次監督作品
参加者数	毎回１０～２０人（スタッフ２人）　※コロナ禍で孤立する独居老人対象

分析・課題

〇コロナ禍にあって、孤立する高齢者の見守りの手段として、大きな役割を担うことができた。今後も、感染予防を徹底して継続して開催したい。

②高齢者の社会参加・場の提供≪写真・アルバム洗浄≫

開催目的	写真・アルバム洗浄・高齢者の社会参加
開催日時	７月⇒６回（１１日・１６日・１８日・２３日・２５日・３０日） 　８月⇒６回（１日・６日・８日・１３日・２７日・２９日） 　９月⇒４回（１０日・１２日・１７日・２６日） １０月⇒３回（７日・２２日・２４日） １１月⇒２回（７日・１２日） １２月２０日　お預かりした写真・アルバムを洗浄して全て依頼者へ返却する 毎週　木曜日・土曜日　午前１０時～１５時
会　場	染地地域福祉センター　貸し出し室
内　容	浸水した写真・アルバムの洗浄

	※２０１９年依頼された写真・アルバム洗浄９軒分、全て依頼者へ返却する。 令和３年１月からは自主グループ調布 SPV として活動する。
参加者数	概ね６人のボランティアを中心に活動する

分析・課題

〇災害ボランティアセンターを閉鎖後、浸水被害に遭った写真・アルバムの洗浄活動をスタートした。浸水被害に遭った９軒から写真・アルバム洗浄を依頼され、概ね１年半をかけて洗浄活動し、１２月に洗浄済みの写真アルバムを依頼者へ返却することができた。
何より、１年半の活動する中で、最後まで活動を続けてくださった６名のメンバーで今後の活動内容について意見交換を重ね、今後は、１つのボランティア団体「調布ＳＰＶ」として写真・アルバム洗浄活動を継続することとなった。現在は茨城からの依頼を受け洗浄活動している。
今後、起こりうる災害時に活動できる団体になるよう継続して支援したい。

③第２３回　ボランティアまつり染地（小地域交流事業を兼ねる）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

④染地小地域交流事業パートⅡ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントは中止したが、染地地域のボランティア活動団体の活動状況（活動休止している団体、感染予防に十分配慮し活動を継続している団体など）を共有する情報交換会「これからの活動を考える場」を企画した。
次年度に向け、映像を活用したイベント開催など、活動の多様性を求めるためにプロジェクターを購入した。

⑤地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

〇地域福祉コーディネーターとの連携により、地域のニーズの掘り起こしや、細やかな支援が可能となった。コロナ禍にあって孤立する高齢者を対象に、スマホに関する相談室の立ち上げに向けたＺｏｏｍ会議を実施した。

〇スマホちょっと相談室　染地

日時・内容	①２月２６日（金） 　第１回「スマホちょっと相談室　染地」立ち上げに向けたＺｏｏｍ会議 ②３月１２日（金） 　第２回「スマホちょっと相談室　染地」立ち上げに向けたＺｏｏｍ会議 ③令和３年４月１０日㈯「スマホちょっと相談室」開催予定
会場	染地地域福祉センター　ボランティア室
テーマ	シニアのための「はじめてのスマホ体験教室」では個別の質問ができなかったため、実際にスマホを使って「わからない」ことを質問できる場として検討。個々の質問に答える仕組みづくりを進め、高齢者の社会参加を促すことが目的。

スタッフ	６人
備考	令和３年４月１０日「スマホちょっと相談室」の開催に向けた準備会。 コロナ感染予防対策として、全て予約制とする。

分析・課題

〇スマホを使いこなすことで、コロナ禍での家族、友人とつながる手段となるように支援する。

〇災害情報など、情報収集の手段として日頃から慣れ親しむことが大切であることを伝える。

⑥地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）との連携

実績等

〇高齢者のフレイル対策

目　的	高齢者のフレイル対策とゆるやかな見守り
日　時	染地筋トレ通う会　毎週火曜日　午前１０時～正午　全３６回
会　場	染地地域福祉センター　第１・２集会室
内　容	介護予防「１０の筋力トレーニング」を実施 ※コロナ禍であっても感染防止対策を徹底して、継続実施した結果、身体を動かす場所を探す方達の居場所となっている。
参加者数	毎回１５～２０人

〇高齢者の孤立防止　第１弾「スマホで繋がろう！！」

開催目的	高齢者の孤独化防止
開催日時	６月２４日(水)　午前１０時～正午
会　場	染地地域福祉センター　ボランティア室
内　容	コロナ感染防止対策により、高齢者の交流の場がなくなってしまい、高齢者の孤立が心配される中、LINE で繋がる仕組みを考える機会とした。
参加者	６名

〇高齢者の孤立防止　第２弾シニアのための「はじめてのスマホ体験講座」

開催目的	スマホを持っている人も、持っていない人も関係なくスマホを貸し出し、実際にスマホを使って一緒にスマホ体験をする。
開催日時	第１回　１１月２日（月）午前１０時～１２時 第２回　１１月２日（月）午後１時３０分～３時３０分
会　場	染地地域福祉センター　大集会室
内　容	日頃、高齢者から「ガラケーからスマホに変えたいと思っているが、実際使うことができるのか心配している」という相談を受けることが多く、対応を考えていた中で、ソフトバンク(株)の地域貢献の取り組みの一つである､高齢者向け｢スマホ体験教室｣を知り、協力依頼、実現した。
参加者	第１回　２０名 第２回　２０名 ※どちらも定員を上回る参加申し込みがあり、対応に苦慮した。

<u>分析・課題</u>

〇地域支え合い推進員と連携し、１０の筋肉トレーニングの推進に注力したが、コロナ禍でいたるところの体操教室が中止となったため、継続して開催している「染地筋トレ通う会」に参加される方が増加した。毎回、定員を上回る参加希望者があり、新たな「染地筋トレ通う会」の新設に着手する必要性を感じる。

〇コロナ禍で、様々なデジタルデバイスの活用が広がり利便性が高まる一方で、高齢者は情報を得ることが難しくなっている。対面できる交流の場も減る中、スマホに慣れ親しむことで、少しでも社会参加を促すことができるよう、スマホを使ってわからないところを質問できる「スマホちょっと相談室　染地」を立ち上げ、案内できるよう努力したい。

（５）緑ヶ丘コーナー

<u>結果の概要</u>

〇コロナ禍で、定例だった小地域交流事業「緑ヶ丘ふれ愛の集い　パート１・２」共に開催中止となった。

〇例年行ってきた「夏休み親子体験」もコロナ禍のため開催できなかった。

〇緑ヶ丘地域福祉センターを利用していた団体やひだまりサロンの活動も、ほぼ休止となった。また、ボランティアグループの活動は、４月～６月頃までは地域福祉センターが利用休止となり、その間お休みしたが、その後は活動再開したグループも多かった。

〇昨年から、地域包括支援センターとともに、新しく企画した「１０筋体操」が、「筋トレグループ」の名で地域福祉センターへ登録、自主サークルとなり活動に至っている。

〇コロナ禍でもできるボランティア活動として「切手すみれ」グループが発足し、広報などでメンバー募集も呼びかけ、定期的な活動となった。

〇全体を通して、団体やグループの活動状況について、活動再開に向けた相談が多かった。

〇参加できる活動を探して来所される個人のご相談も目立った。

〇地域包括支援センター仙川（後半はつつじヶ丘に加わる）や地域福祉コーディネーターとの連携をとり、地域の課題や個別ケースに取り組むことが増え、地域を支える連携の大切さを感じる一年だった。

〇９月より、地域の方々へ向けた情報誌「緑ヶ丘だより」を作成し、地域の方のお話や情報などを集め、地域の方々へ、少しでも元気を伝えたいと考え、第５号までほぼ毎月発刊した。

〇これまで参加が難しかった講座や研修会などへ、リモートでの参加が可能になり、受講する機会を多く持つことができた。

①第２０回緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい（ボランティアまつり・小地域交流事業）

<u>結果の概要</u>

〇新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、パート１・２ともに中止となった。

②「２０２１夏休み親子体験！」の実施

※緑ヶ丘ボランティア連絡会とおせっかい広場との共催

結果の概要

〇新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止となった。

③「認知症サポーター養成講座」の開催　※地域包括支援センターつつじが丘と共催

結果の概要

〇緑ヶ丘小学校の３年生を対象に開催した。緑ヶ丘小学校での開催は初めてであった。

〇第八中学校２年生対象の講座は中止となった。市民劇団 G2 カイズの出演も見送られた。

④さわって覚える「はじめてのスマホ体験」講座開催２回　地域福祉コーディネーターとの共催

結果の概要

〇スマホを持っているが､使い方がよくわからないという方に､まずスマホに慣れてもらい、 コロナ禍や災害時でも、人とつながる方法の一つとして役立てるために、２回講座で開催した。

〇スマホの使い方を教えてもらえる、おさらい会のような形で、今後は定期的な開催を考えている。

実績等

第１回・第２回

日　時	1回目1月１６日（土）・２回目　１月３０日（土）午後１時３０分～午後３時
会　場	緑ヶ丘地域福祉センター　大集会室
参加者	１回目　１４人　・　２回目　　１７人
講師協力	ソフトバンク社員

⑤地域包括支援センター仙川（１１月より、つつじヶ丘包括支援センター）、地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

〇地域福祉コーディネーターとともに、月に一回開催の地域包括支援センター仙川との合同会議（包括支援センター・社協会議）へ出席し、情報提供など、地域の問題・課題を共有することができた。１２月からは、福祉圏域の再編に伴い、地域を担当する包括支援センターの変更があったため、つつじヶ丘包括支援センターとの定期的な会議にも出席し、情報共有に務めた。

〇月に１度の「仙川オレンジカフェ」は７月から活動を再開し、認知症カフェの役割を担いながら、スタッフは、市内の認知症予防の集まりへも積極的に参加、周知活動に協力している。

〇「仙川こども食堂」は感染防止の観点から活動を休止している。

〇１０の筋肉トレーニングの地域福祉センターでの開催、包括支援センター職員のサポートとして、参加する方の見守り支援を行った。「筋トレグループ」の名前で自主グループとして団体登録を行い、定期的な活動に繋がっている。

⑥地区協議会「まちづくり協議会」との関わり

結果の概要

〇４月から３月まで会議、イベントすべて中止となった。

（６）西部コーナー

結果の概要

〇コロナ禍により　毎年地域の方々が楽しみにしている小地域交流事業「ふれあいのつどい」、第五中学校のボランティアダンス部による「心も体も温まる地域交流祭」の開催が中止となった。今後はコロナ禍でも実施できる世代間交流を提案していきたい。

〇感染症拡大の影響により孤立化が進み、高齢者ご本人や介護者から不安の声などを聴くことが多くなった。必要があれば関係機関につなぎ、その後も声かけや見守りを続けている。

〇『西部地域ネットワーク会議』（地域包括支援センターせいじゅ、西部公民館、地域福祉コーディネーターとボランティアコーディネーター）を年２回定期的に開催してきたことで、顔の見える関係になり、連携がとりやすくなっている。情報共有することにより、地域の課題解決に結びつけることができている。２月１６日（火）の第２回は、緊急事態宣言中のため中止となった。

〇家族が家で過ごす時間が増えたことで、家庭内の衝突など問題が顕在化し、女性からの相談が増えてきている。短時間でも外で過ごせる時間があることが重要と考え、新たに切手整理ボランティアをコーナー内で始めることにした。相談者にも参加してもらい見守りをしながら切手整理を行っている。気軽に参加できる活動であり、現在休止している団体のボランティアにも参加してもらっている。

〇感染が拡大し、活動休止している団体の代表者から再開の相談を受けている。代表者の不安な気持ちに配慮し、感染防止対策を講じた安全な活動が出来るように支援していきたい。

〇西部地域福祉センターは、府中市との境にあり、府中市民も利用が多く、相談も数件あった。話を伺い府中市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターに連絡した。ご相談者から解決につながったと報告があった。今後も府中市の地域福祉コーディネーターとの連携を取り、ご相談者の対応をしていきたい。

分析・課題

〇第三小学校の避難所開設訓練に参加した。西部地域は水害被害予想地域のため、地域住民の関心も高い。コロナ禍での避難、ＩＣＴの利用など、地域の方々の理解や協力が必要である。防災に関しての企画にも積極的に取り組んでいきたい。

〇ＩＣＴ化が加速し、情報弱者である高齢者にも「初めてのスマホ講座」から始め、必要な防災情報を自分で入手できるよう支援したい。

〇スマホに慣れ親しむことで、外出できない状況になっても家族や友人とつながることができるようになることはもちろん、疑似旅行体験などの楽しめる企画を紹介していきたい。

〇フードバンクの「子ども元気プロジェクト」、「２月の学生応援パントリー」に協力した。地域福祉センターの利用者にひとり親家族、学生達の現状をお伝えし、食料品の寄付を呼び掛けた。

生活に困窮している子ども、若者の存在を知ってもらう良い機会となった。沢山の食料品寄付があっただけでなく、身近なコーナーでの取り組みに対して、感謝してくれる寄付者もいた。その後　ニュースで見たという話題にもなり、地域の方々の関心が高まったと手ごたえを感じることができた。府中市民の方からは、「調布はコーナーがあり、素晴らしい。草の根の活動につながっている」という言葉を頂き、コーナーの存在意義を感じることができた。

実績等

①『西部ふれあいのつどい』（小地域交流事業）　中止

開催目的	地域の中で　知り合い、互いに支え合い、助け合って安心した生活が送れるよう「集いの場」づくりと　世代間交流活動を行う

結果の概要

〇第１回の実行委員会の中で、感染防止対策を講じた代替案も提案されたが、高齢者の参加が多く、リスクが高いということで中止と決定した。

「ふれあいのつどい」は中止となったが、今後、感染状況が落ち着いた際には、防災など地域について考える機会として、実行委員会を行うことに決まった。

分析・課題

〇実行委員の方々も高齢者が多いため、第１回以降は実行委員会は開催しなかった。

②第五中学校ボランティアダンス部生徒による『心も体も温まる地域交流祭』中止

開催目的	地域の方々と仲良くなりたい、交流したいと　第五中学校ボランティダンス部の生徒達が企画・運営。

結果の概要

〇５年連続で開催し、地域ではすっかり馴染みとなったが、今年度は開催することが出来なかった。交流会後に行われるハンドマッサージも高齢者の方々から人気が高く、地域の方々からも残念だとの声が多かった。

分析・課題

〇参加する生徒は１年生と２年生であり､中心となる２年生が１年生に指導し､引き継いできた。今年度開催できないことにより、来年度は、交流会を経験している生徒がいなくなる。地域の高齢者と交流したいという気持ちを繋げてもらえるように、来年度は顧問の先生と相談しながら　交流会以外にもボランティア活動を提案していきたい。

③高齢者インタビュー

目　的	高齢者理解
日　時	７月１８日（土）　２時間目、３時間目

会　場	飛田給小学校　特別活動室
内　容	生徒達が９グループに分かれ　順番に２名の高齢者に質問
参加者	地域の高齢者　２名、４年生１組、２組、３組

結果の概要

〇７月２日の認知症サポーター養成講座を受講した４年生が対象。
生徒達は認知症について学んだことで、高齢者の生活にも興味を持ち、次々と質問が出ていた。「高齢者になって　どんなことが大変か？」「高齢者が困っていた時に自分達はどう対応すればよいか？」という、思いやりを感じる質問が複数のグループからあった。

〇地域の高齢者を代表し、男女一人ずつ参加を依頼したが、１グループ５分間、短い時間で沢山の質問に答えてくれた。調布市の「暮らしの案内」シルバー編や介護保険の資料を持参し生徒に手渡すと、すぐに図書室へ行き、介護制度について書かれた参考書を持ってくるなど、反応が素晴らしかった。

分析・課題

〇授業始めに生徒達から歓迎の言葉があり、高齢者２人の名前と絵を描いた名札を首に掛けてくれた。休憩時間には、数人の生徒達がお茶を用意してくれ、最後にはお礼の言葉があった。
生徒達の礼儀正しさと優しさに感心され、学校側の心遣いに感謝され大変喜ばれていた。
来年も協力したいとお申し出があった。また、今後も子ども達と関わりを持ち、役に立ちたいとのご希望があった。次年度は学校行事以外にも　子ども達と高齢者を繋げることを提案していきたい。

④認知症サポーター養成講座への協力

開催日時	１２月２日（水）　４時間目
主　催	地域包括支援センター　ちょうふの里
会　場	第３小学校　体育館
内　容	認知症についての解説、寸劇
参加者	地域包括支援センターちょうふの里４名、せいじゅ１名、社協２名 ４年１組、２組、３組

結果の概要

〇第三小学校では、認知症サポーター養成講座は　初めての開催であった。

〇認知症についての説明、包括支援センター職員による寸劇、アンケート（受講前、受講後の変化）を行った。

分析・課題

〇できるだけ密にならないように体育館で開催した。大変寒かったが、生徒達は冷たい床に座って静かに受講していた。通常２時間であるが、今回は１時間に短縮したため、生徒達がグループに分かれて話し合う時間が取れなかった。

〇高齢者インタビューなど、講座の内容が生徒達に定着するような活動を紹介していきたい。

⑤地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

〇高齢者施設、学校、地域の様々な団体との連携が取りやすくなり、課題に対して支援を行いやすくなった。

実績等

〇第三小学校　認知症サポーター養成講座に協力した。

〇飛田給小学校　高齢者インタビューを実施した。

〇フードバンク、フードパントリーに協力した

〇コロナ禍での家庭内暴力、経済的な問題、介護ケアラーなどの課題解決の取り組みに協力した。

（７）野ヶ谷の郷

結果の概要

〇梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成１６年１１月１日にオープンした市民活動支援センターのブランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

【概要】

機　　能	①　ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能　⑤活動発表ギャラリー
開　設　日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設
貸　出　日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ	４１人（うち役員７人）

実績等

①総会・スタッフ交流会

※感染症拡大の影響を受け、スタッフ交流会は中止、総会はスタッフから委任を受け、役員会によって承認・決議した。

日　時	５月１９日（金）午前１０時００分～１２時００分
内　容	以下の議案を提案し、承認された。 ・令和元年度事業報告・令和元年度決算 ・令和２年度事業計画（案）・令和２年度予算（案） ・令和２年度役員（案）
参加者	出席７人、委任状提出３４人

②野ヶ谷の郷運営委員会役員

代表	四家　綾子	会計監査	百合田　紀恵子	役員	小阪井　真樹子
副代表	小澤　康史	役員	平柳　千鶴子		
会計	磯野　幸子	役員	石川　規子		

〇役員会は、感染防止対策を講じ、全６回開催した。

〇野ヶ谷の郷だよりは、感染症拡大の影響を受け、従来通りの事業実施ができなかったことに加え、緊急事態宣言下での休館などの対応があり、発行は１回のみとなった。また、配布先も近隣住民のみとし、２００部のみ配布した。

③ボランティアスタッフによる独自活動

内　　容	開催日時
絵を描こう会	第１・第３土曜日
パッチワークの日	第４木曜日
折り紙の日	第４火曜日
お直しの日	第２・４土曜日

分析・課題

〇新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、独自イベントや地域イベントは全て中止となった。独自活動も感染防止の観点から、飛沫や距離のリスクのある「ふれあいランチ」と「パソコン教室」は開催できなかった。

〇ボランティアスタッフの高齢化やスタッフの交通の足となっていたバスの減便などの影響を受け、開所時間を午前１０時～午後４時（従来は午前９時～午後５時）までに短縮した。

〇休館と再開を繰り返す経験したことのない１年となったが、感染防止対策について考え、事業を縮小しながら開所する中で、地域の居場所として在り続ける意義や継続することの大切さに改めて気付くことができた。

〇高齢者の居場所として定着している印象があるが、改めて多世代交流の場として周知や発信を行う必要がある。誰もが安心して立ち寄れる場として工夫を凝らし運営を継続していきたい。

〇野ヶ谷の郷ボランティアスタッフ同士で新たなスタッフ参加を呼びかけるなど、スタッフが減ることなく安定した運営ができている。

第２　　情報･資料の収集及び提供

１　えんがわだよりの発行

結果の概要

〇ボランティア募集や市民活動に関する話題を取り上げる機関誌として発行した。

〇その時その時のボランティア・市民活動情報をタイムリーに提供するため、年１１回発行。

〇多くの方に手にしてもらう工夫として、関連講座での参加者配布を心掛けている。

〇えんがわだよりを手に取った方が｢関われる･関わりたい｣と思えるニュースレターを目指す。

〇えんがわだよりサポーターとして機関紙作成に携わる協力者を募集し、市民と一緒にえんがわだよりを作っていく方法を模索した。

〇特集記事の作成にあたり､職員が様々な団体の活動の現場にお伺いし､見学･取材することで､､紙面の充実と団体との関係性の構築につながっている。

【概要】

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。また、記事づくりを通し新たな人々との関係を構築する。
編集方針	〇市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていく。 ・ボランティア活動などの市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。 ・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。 ・市民活動団体の情報受発信源となる。 〇社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていく。 ・社会課題にとりくむ市民活動などを通して、地域社会の現状と将来について考えていく。 ・さまざまなネットワーキングを通して、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつながりのあり方を考えていく。 〇市民活動支援センターの考えや方針を伝えていく。 ・センター事業の報告などを通じ、センターの取り組みを紹介する。
発行日	毎月１５日発行
発行部数	毎月１，３００部
配布先	・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学 ・市内企業(弁当チェーン店、郵便局、京王線駅頭など) ・市民活動支援センターサポーター ・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター
内容	・特集記事（地域の市民活動団体紹介、社会課題の取り組み紹介など） ・ボランティア募集 ・お知らせ（地域の市民活動情報、助成金情報など） ・センターからの発信（コーディネーターの感じた事、周知したい活動紹介）

実績等

各号の特集記事の内容

号数	内容
4 月号（№165）	紙媒体発行休止
5 月号（№166）	経験したことのない今を乗り越えていくために
6 月号（№167）	また、これから、共に！ 市民活動再開に向けて
7 月号（№168）	めぐる・つながる「えんがわファンド」
8 月号（№169）	調布パソコンサークル 活動 20 年、つながりが生み出したもの
9 月号（№170）	アロマテラピー(芳香療法) 香りある豊かな生活
10 月号（№171）	コロナ機の調布 STAYHOME ボランティア 未来に向かって一歩ずつ
11.12 月号（№172）	思いやりを持って聴く力 聞いてる？それとも聴いてる？
1 月号（№173）	まちの「えんがわ」をめざして
2 月号（№174）	NPO 法人　調布ハンディキャブ 地域を支える、福祉有償運送
3 月号（№175）	さくらや調布店　代表　平野玲奈さん 学生服リユースで笑顔をバトンタッチ

分析・課題

〇表紙、ボランティア情報、おしらせ情報ページについて、より読みやすくなるよう、文字の大きさ、情報の量を工夫した。

〇読者のニーズに合った情報を提供できるよう、職員間で共有を行い、毎月新しい情報を掲載するようにしている。

〇より多くの人に興味をもってもらうために様々な視点からの特集記事を組めるよう、多くの団体との繋がりをさらに築いていきたい。

２　えんがわだよりオンライン（えんがわだよりブログ版）

結果の概要

〇平成２０年３月より、シーサー株式会社運営無料ブログサイトを活用し、Web 上でえんがわだよりの配信を行っている。

３　市民活動支援センターホームページ運営

結果の概要

○より多くの市民が市民活動にかかわるきっかけを得る媒体として役立てるため、市民活動支援センターのホームページを運営した。

○ホームページの構成は、市民活動団体の情報の受発信（イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など）を支援すると同時に、「調布市生涯学習情報コーナー」「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」と連動し、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体として情報の共有化、ページの見易さ、使い易さを工夫している。

○登録団体数については、市内の特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム（CLIC）や、地区協議会、調布市立図書館の情報発信事業である「市民の手によるまちの資料情報館」のサイトと情報共有を図り、現在５６４団体がセンターの団体ページを公開している。（他に、活動休止、廃止などの団体の事情により、ページ登録中の非公開団体が３１０団体）

○主な項目は、「団体検索」「イベント・講座」「市民活動（NPO/地域活動）とは」「寄付・助成金」「ボランティア情報」「企業の社会貢献（CSR）」「センター利用案内」などである。

○調布市が平成２９年４月から始めた「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」とのシステム連動で、「団体登録」「イベント情報」が連動して掲載されることになっている。

実績等

ホームページ全体のアクセス数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R1年度	3,428	3,418	3,779	3,811	2,887	3,083
R2年度	2,141	2,698	2,779	3,062	3,271	2,790

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1年度	7,285	3,209	2,955	3,443	3,106	2,787
R2年度	2,809	2,723	2,981	3,125	3,317	3,842

○アクセス解析で、Googleアナリティクス（Webアクセス解析ツールの名称）は３０分以内のアクセスは１アクセスとしてカウントしている

分析・課題

○前年度同月のアクセス数と比較すると、多くの月で減少している。Ｒ１年度３月のアクセス数から減少していることを考えると、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、活動先などが減少したことが大きいと考えられる。

○１０月の件数差が最も大きくなっているのは、令和元年度台風１９号の被害によりボランティアセンター設置を行ったため、アクセス数が増加したためである。

○Ｒ２年度３月のアクセス件数が増加したのは、ふくしの窓３月号で市民活動支援センターの特集記事を掲載した効果と言える。

４　資料コーナーの充実

より多くの市民がボランティア・市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして役立てるため、市民活動支援センターに資料コーナーを設置している。

結果の概要

〇ボランティアやＮＰＯ関連のみならず、幅広い分野のチラシやポスターを配架、掲示したことで、多様な活動情報を提供した。調布市のみならず、都内で市民活動の拠点となっているセンターや施設、団体のニュースレターを閲覧と保存のため分野分けをしている。

〇サポーター会員になっている団体専用のチラシラックを設置し、広報の支援を行った。

実績等

（１）チラシ等受入数内訳（令和２年４月～令和３年３月）

内容	Ｒ２	Ｒ１	分野	Ｒ２	Ｒ１
講座・講演	241	344	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・市民活動支援	225	237
イベント	89	249	福祉・保健	153	247
ボランティア募集	22	39	災害	37	29
スタディツアー・キャンプ	0	6	まちづくり・地域安全	61	99
寄付・募金	3	13	人権・国際協力・男女共同参画	65	107
団体・活動紹介	55	80	社会教育	14	17
スタッフ・メンバー募集	31	85	環境保護	29	41
助成金	68	41	文化・芸術・スポーツ	94	194
その他	94	79	こども	52	84
計	603	936	その他	74	110
			計	804	1165

体裁	Ｒ２	Ｒ１
チラシ	479	768
ポスター	140	261
パンフレット他	91	110
計	710	1139

（２）ニュースレター受入数内訳（令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月）

分野	R2	Ｒ１
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・市民活動支援	83	85
福祉・保健	40	35
まちづくり・地域安全	13	10
人権・国際協力	10	11
環境保護	9	7

文化・芸術・スポーツ	7	9
災害	4	5
こども	7	4
その他	7	9
計	180	175

（３）定期購読雑誌の受入数内訳

誌　名	出　版　社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア･市民活動センター	隔月刊
ウォロ	大阪ボランティア協会	年６回
月間福祉	全国社会福祉協議会発行	月刊
ホームレスの仕事をつくり自立を応援する「ビッグイシュー日本版」	ビッグイシュー日本発行	月２回

（４）閲覧用図書・機関団体等報告書類の新規受入れタイトル

内容	R2	R１
ボランティア概論	0	1
市民活動支援、NPO 設立ガイドなど	5	2
福祉関連	3	6
災害	1	0
その他	1	3
計	10	12

分析・課題

〇配架依頼、掲示依頼が多数あり、資料コーナーが雑多な印象になりやすいため、期限切れ資料の撤去を随時行うなど、情報の整理に注力した。また、ボランティア・市民活動を身近に感じ、参加につながるきっかけとなるような興味を引くタイトルの閲覧用図書の購入も進めていく。

〇利用者アンケート調査の結果から、カテゴリー別に分かりやすく配架することを希望する意見が多かった。センターレイアウトの変更と合わせて配架場所をまとめるなど、改善したが、引き続きわかりやすく整理整頓することを心掛け、見やすく手に取ってもらえるように改善を継続する。

５　多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

結果の概要

〇Ｊ－ＣＯＭ株式会社（ＣＡＴＶ）、調布エフエム株式会社、タウン誌（１８２ch）、地域ポータルサイト（ちょうふどっとこむ・ちょみっと）などの協力を得て、多角的な情報提供に取り組

んだ。
○ふくしの窓３月号で、市民活動支援センター及び各コーナーについての特集記事を組んだことで、市民の方からの問合せや外国コイン、使用済み切手の寄付の増加につながった。

６　市民活動団体リストの発行

結果の概要
○隔年の発行であり、令和元年度に発行しているため、今年度は発行していない。
○「令和元年・２年度市民活動団体リスト」の配布を行った。掲載団体数は４２０団体。
○調布市生涯学習情報コーナーと協力し、市内のボランティア・市民活動団体（ＮＰＯ法人含む）の紹介冊子を配布した。

第３　　ボランティア・ＮＰＯ・市民活動団体、個人の活動支援

１　スペース・設備の貸出し

結果の概要
○市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなど、様々な目的に応じてスペースの貸出しを行った。

実績等
（１）市民活動支援センター（国領）来館者及びはばたき利用状況
□来館者数（人）

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
来館者数	416	272	3,025	5,372	2,264	2,705
一日平均	17	16	104	179	78	93
前年同月比	7%	10%	81%	67%	68%	75%
月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
来館者数	2,840	2,795	2,425	1,694	1,908	1,889
一日平均	95	96	90	63	73	63
前年同月比	83%	78%	83%	58%	58%	88%

□ 活動スペースはばたき・ＯＡコーナー利用者数（人）

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
月間利用者	0	0	1,566	1,902	1,813	2,249
一日平均	0	0	54	63	63	78
前年同月比	0%	0%	48%	57%	64%	71%

月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
月間利用者	2,362	2,314	1,938	1,313	1,585	1,490
一日平均	79	80	72	49	61	50
前年同月比	80%	73%	76%	55%	55%	86%

□年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総利用者数・相談件数】

	令和元年度	令和２年度	前年度比
来館者数(人)	45,962	27,605	60%
利用者数(人)	33,119	18,532	56%
相談件数(件)	563	365	65%

〇令和２年４月７日（火）から令和２年５月３１日（日)、緊急事態宣言発令措置（第１回目）
　令和３年１月７日（木）から令和２年３月２１日（日)、緊急事態宣言発令措置（第２回目）
〇東京都知事選挙の期日前投票が６月、７月の平日５日間行われた。
〇新型コロナウイルス感染拡大により、活動を懸念する利用者が増えた。

	令和元年度	令和２年度	前年度比
活動、会議、打ち合わせ	２２，６６２人	１１，２３６人	５０％
パソコン利用	２，４４０人	１，７７５人	７３％
学習	７，７１１人	５，２８３人	６９％
印刷機	３０６人	２３８人	７８％
合計	３３，１１９人	１８，５３２人	５６％
展示（壁）	１２件	８件	６７％
展示（その他の場所）	１件	２件	２００％
合計	１３件	１０件	７７％

【利用者数内訳】

結果の概要

〇新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が発出され、４月から５月はあくろす館内が閉館し、利用者が著しく減少した。(午後８時閉館４月１８日（土）から土、日、祝は完全閉館)
〇令和２年６月より、三密を避けるため椅子や机の数、配置を調整し、感染防止対策を行った。
〇令和３年１月７日（木）から令和３年３月２１日（日）の期間、２回目の緊急事態宣言が発出され、夜間利用が午後７時までとなり、利用者数に影響があった。
〇自動体温測定器、加湿器、空気清浄機（２台)、パソコン用のクリーニングシートの設置など、

感染防止対策の徹底に努めた。

分析・課題

〇感染症拡大の影響により、活動を懸念する利用者が増え、活動を自粛する団体が多かった。

〇感染を拡大させないよう、利用する団体や個人への注意喚起を継続して運営を行う。

〇令和３年３月、老朽化による安全性の著しい低下や、アンケート調査から見えた利用者の声に応えるため、えんがわ設備を解体し、センターレイアウトの変更に着手した。今後は利用者同士の交流や、センターと利用者が交流できるスペースにしていく予定である。

〇活動スペース「はばたき」は、団体・個人とも調布市内だけでなく、他市からの利用も多く、便利であると認知されている。

〇壁面展示スペースの活用については、休館日をしっかり考慮する必要がある。

〇パソコンコーナーについては、市民活動・ボランティア活動の支援という本来の目的以外の活用が多いが、現状の対応で特に課題は感じられない。

〇ちょみっとの周知は行っているが、実際の利用が促進できていないため、普及啓発に努める。

（２）ボランティアコーナー（ブランチ）来所者数

拠　　点	来所者数	
	人数	一日平均
小島町コーナー(週５日)	＊ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動室利用者数 1,469 人	6.6 人
菊野台コーナー(週３日)	1,139 人	7.9 人
富士見コーナー(週３日)	1,340 人	12.1 人
染地コーナー　(週５日)	2,921 人	18.4 人
緑ヶ丘コーナー(週３日)	1,820 人	18.1 人
西部コーナー　(週５日)	1,964 人	12.2 人
合計	10,653 人	12.5 人

（３）ロッカー、メールボックス、倉庫２スペースの貸し出し（国領）

結果の概要

〇活動室内に設置されているロッカー、メールボックス、倉庫２の空きスペースを希望する市民活動団体に貸出を行った。

〇ロッカーの利用率は高いが、メールＢＯＸは利用率が低い。有効活用するための幅広い検討が必要である。≪利用率；ロッカー 99/108　メールＢＯＸ 37/168　2021/2/28 現在≫

〇倉庫２スペースは、ほぼ満杯状態となっている。

実績等

内　　容	Ｒ２年度	Ｒ１年度
ロッカー利用団体	９９団体	１０４団体

メールボックス利用団体	３７団体	３９団体
倉庫２空きスペース利用団体	１６団体	１６団体

※令和３年２月末日の実績　３月から翌年度の更新が始まるため。

〇新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、長期間に渡って活動自粛となっている団体などのうち、活動終了や活動場所が変更となった団体があり、１２団体がロッカーを返却（昨年度は７団体）した。

〇倉庫２スペースについては例年４月中旬に、更新・抽選会を行っているが、緊急事態宣言を受けて、６月に開催をずらして実施した。

分析・課題

〇ロッカー、倉庫２スペースともに、利用状況を確認し、未使用で長期間の保管スペースとなってしまっている団体への連絡を行い、有効に活用できるようにしていきたい。

２　ボランティア保険・行事保険の加入受付

結果の概要

〇ボランティア保険への加入促進の呼びかけと、加入手続きの事務を取り扱った。

実績等

ボランティア保険加入者数（通年保険・受付随時）		３，５２０人	
行事保険加入件数	日帰り行事	１１２件	２，５８７人
	宿泊行事	０件	０人

３　無線 LAN スポット運営（小島町）（国領）

平成１６年度よりセンターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを調布市総合福祉センター２階フロアに設置し、活動室、会議室、交流スペースなど２階一帯において、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能な環境の設定を行っていたが、利便性向上のため、スペースを拡張し、１階でも利用できるよう改善した。

あくろす２階・３階共通のフリーWifi 導入に伴い、SSID(Chofu-Free-WiFi-Plus01)に無線 LAN を利用している。

分析・課題

〇はばたきにて、ペーパーレスでの会議や Web 上でのミーティング及び資料作成をする市民活動団体が増えているため、有効活用されている。しかし、利用者アンケート調査の結果において、１時間で接続が切れる設定が使いにくいという意見が多くあり、指定管理業者に情報提供した。使いやすい環境に改善できるよう、引き続き働きかけを行っていく。

４　電話応対代行サービス（国領）

結果の概要

〇市民活動団体が実施する活動やイベント・講座などに関する問い合わせ・受付けの支援サービスとして、電話応対代行サービスを実施した。

実績等

利用料金	一件につき、月額１，０００円　（サポーター会員は８００円）	
利用件数	延べ９件（３団体）	前年：延べ４４件（８団体）
サービス内容	・　行事・講座・講演会・コンサートなどへの内容照会および参加申込受付代行・団体の活動に関する問合せへの応答代行	

分析・課題

〇感染症拡大の影響により、多くのイベントが中止や延期となったため、利用件数が著しく減少した。

〇企画や受付の体制が整っていない団体のサポートの役割として機能している。

〇定期的に利用している団体の中には基盤が整っているところもあり、本サービスを使わずに自立していく支援の検討も必要である。

〇各団体が行う広報活動との調整に苦慮する場面もある。また、休館日の対応の周知も必要。

５　印刷機の設置・運用

結果の概要

〇市民活動団体のイベントチラシや会議資料など、大量の印刷物を安価に印刷できるよう、利用講習修了者であれば誰でも利用できるリソグラフ式印刷機を設置している。利用料は、マスター１枚につき５０円、印刷枚数５００枚につき１００円の費用徴収を行っている。

〇利用者アンケートの中で、印刷機を紙折り機と一緒に設置して欲しいという意見があり、センターレイアウトの変更と合わせ、倉庫２へ移動し、印刷後の移動の手間を省けるように改善した。

実績等

利用実績	令和２年度	令和元年度
印刷機利用者数	２３８	３０６
印刷講習受講人数（新規利用者）	１３	２９

分析・課題

〇製版の際にインクがうまく出ない不具合が発生することが数回あった。必要なメンテナンスは定期的に行っているが、使いたいときに使いやすいように日ごろから整備しておく必要がある。

６　市民活動支援に関する講座・相談会

結果の概要

〇８つの講座を実施した。「えんがわカフェ」は、運営委員をはじめ市民の協力を得て実施した。

〇災害ボランティア養成連続講座は、感染症拡大の影響を受け、企画できなかった。

〇地域人材養成講座は、調布市協働推進課との連携事業として、会議で検討しながら２回実施した。特に若い世代の市民活動参画を狙い、就職活動に絡めた講座の実施を初めて試みた。

実績等

日　時	開催名	参加者数	講師	会費	場所
9 月 26 日（土） 午後 2 時から 3 時 30 分	えんがわカフェ#8 「未来を変える小さな図書館えんがわ文庫プロジェクト」	16 人	児島秀樹 氏 平澤和哉 氏	無料	市民活動支援センター及びオンライン
10 月 10 日（土） 午後 2 時から 4 時	地域人材養成講座① 「就活で差がつく学生生活」	6 人	森直樹氏	無料	市民活動支援センター
10 月 21 日（水） 午前 10 時から 正午	えんがわカフェ#9 「育む、繋がる、生きる。誰でも親子をサポートできる居場所って？」	4 人	横山真理 氏 横山由紀 氏	無料	市民活動支援センター及びオンライン
11 月 3 日（火） 午前 10 時から 11 時 30 分	えんがわカフェ#10 「歩いてしあわせノルディックウォーキングを体験してみませんか」	25 人	長谷川佳文 氏 石井美津子 氏	無料	神代植物公園自由広場
12 月 4 日（木） 午後 6 時 30 分から 9 時	NPO 入門講座① 「今さら聞けない！？新型コロナウイルス」	16 人	長谷部恵子 氏 盛田真弓 氏	無料	オンライン
12 月 11 日（金） 午後 6 時から 7 時 30 分	えんがわカフェ#11 「慈恵医大看護学科みんなの保健室を知ろう！」	17 人	嶋澤順子 氏	無料	市民活動支援センター及びオンライン
2 月 6 日（土） 午後 2 時から 3 時 30 分	NPO 入門講座② 「はじめてのクラウドファンディング」	12 人	多田真一 氏	500 円	市民プラザあくろす 2 階会議室 1
3 月 12 日（金） 午後 10 時から 正午	地域人材養成講座② 「活気ある話し合いのコツ！！」	15 人	長浜洋二氏	無料	オンライン
合計	8 回	111 人			

<u>分析・課題</u>

〇えんがわカフェは、「市民活動支援センターが月１回、コミュニティカフェになる」をコンセプトに、毎回様々な角度からテーマを掲げ実施している。えんがわカフェをきっかけに、センターを初めて知る方や、新しいつながりやアイデアを求める団体同士のパートナーシップを強化するきっかけづくりの機会となった。

〇地域人材養成講座は、初めて学生向けに企画を行い実施した。実益を兼ねながら市民活動への興味・関心が高まる内容だった点で参加者の満足度が高かった。しかし、市報をメインの広報媒体として企画したが、ターゲットとなる学生の読者が少なく、想定していたほどの反応を得ることはできなかった。ターゲットや目的に合わせた効果的な広報が今後の課題と言える。

〇ＮＰＯ入門講座①では、新型コロナウイルス感染症の第２波のタイミングを狙い、改めて感染防止対策を医療従事者から学ぶ機会を提供した。講座終了後には、YouTube でも動画を公開し、１人でも多くの方に注意喚起できるよう努めた。

〇ＮＰＯ入門講座②では、近年、一般的な手法となりつつあるクラウドファンディングの初歩について、実際の体験や気付きを元にした分かりやすい内容で講義をいただいた。感染防止対策を徹底し、対面で実施したが、参加者の９割以上が非常に満足できたと回答した。

〇引き続き、感染防止対策を徹底し、有益な情報や学びの場を提供していきたい。

７　不要になった入れ歯、使用済み切手・カード類、書き損じはがき、外国コイン類の回収

<u>結果の概要</u>

〇特定非営利活動法人日本入れ歯リサイクル協会が実施している「入れ歯リサイクル活動」に協力し、調布市総合福祉センター１階に回収ボックスを設置している。
この活動によって得られる益金の一部（４０％）は当協議会に配分され、えんがわファンドの原資として活用している。今年度は、回収がなかったので収益金はなし。

〇使用済み切手、カード類の回収のため、市役所、地域福祉センター、郵便局などに回収箱を設置。その他、企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付も募った。

〇ふくしの窓１月号を活用した広報では、年賀状の書き損じなどがあることを見込んで、書き損じはがき寄付の記事を掲載するなど、タイミングを狙って広報した。

〇チラシを作成し、回収している物を示すことに加え、毎年の売上げ報告も掲載している。市民活動を応援する「えんがわファンド」の原資として、活用していることを周知した。

〇回収された切手類やカード類は、ボランティア団体の協力により整理されている。
近年、切手整理活動団体が、各コーナーで新規に立ち上がり始めている。また、「こころの健康支援センター」や、「希望の家」の利用者プログラムとして、切手整理活動が取り入れられるようになったり、調布市立神代中学校１０組にも協力いただくようになったりして、活動の裾野が広がってきている。

〇新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動先となる総合福祉センターや地域福祉センターを長い期間利用することができなかった。活動休止期間が長期間だったにも関わらず、活動

先が増えているため、整理された切手は、例年通りの売り上げとなった。

実績等

種　　類	売　上　金　額	換　金　日
通常切手・記念切手類	¥48,330	令和３年２月22日
書き損じはがき	¥68,330	
使用済みカード	¥1,250	
外国コイン	¥83,100	
その他	¥300	
総合計　金　額	**¥201,310**	

８　市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

結果の概要

○地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体などを「資金」と「つながり」で助成する事業である。（平成１８年度より実施）

○幅広い分野のボランティア・市民活動や児童・生徒の体験活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。

○市民ファンドとして、市民や企業からいただいた寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、使用済み切手・カードの販売、入れ歯のリサイクルによる益金など、様々な資金を活用して運用した。

○えんがわファンドをきっかけに、助成先団体同士が活動を協働実施する機会も生まれた。

実績等

（１)えんがわファンド選考委員会

①　選考委員会の開催状況

開　　催　　日	９月１７日（木）午後７時～９時
会　　　　　場	市民プラザあくろす３階研修室
内　　　　　容	応募団体６団体を書類審査により４団体に助成決定

②　えんがわファンド選考委員　◎･･･選考委員長

北村　真	ちょうふチャリティーウォーク実行委員
籏野　貞夫	八王子市市民活動支援センターNPO さぽーと８０２
◎壽賀　一仁	市民活動支援センター運営委員長
新國　政和	市民活動支援センター運営委員
髙木　直	市民活動支援センター長

※籏野委員は、体調不良のため、不参加となり、決定内容は委員会に一任となった。

（２）助成先団体　　計４団体　助成総額３５８，１６１円　※　　（申請順）

【２０２０年度えんがわファンド助成先団体一覧】

No	団体名	助成額(円)	助成内容
1	西部うたごえ広場の会	98,480	高齢者の孤立化防止と集いの場づくりを目的に、音楽療法の技法を取り入れて実施するうたごえ広場の楽器購入費、拡声器、歌集用紙代
2	調布ひきこもり家族会「やまぼうし」	59,681	家族会に参加する当事者の家族がひきこもりについての理解を深めるための講師謝金、団体の活動を周知するためのリーフレット印刷費
3	Withgrow	100,000	市民活動団体の魅力を PR する動画を作成し、独自 YouTube チャンネルで紹介するための撮影機器、動画編集ソフト、動画編集用パソコン（一部費用）
4	ミューズ	100,000	障がいのある子どもたちが楽しく発散できる音楽療法を実施するための講師謝金、活動を知ってもらうためのチラシ作成費
	合　計	**368,161**	

※助成対象期間が令和２年４月１日～令和３年５月３１日のため、助成総額は令和３年３月３１日現在の金額。最終の助成総額は６月中に確定する予定。

（３）２０２０年度えんがわファンド交流会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

（４）財源（寄付金等）

実績等

令和２年度に「えんがわファンド」へいただいた寄付金などは以下のとおり。

提供者・概要　※敬称略	R2 年度	R1 年度
サポーター会費	270,000 円	363,000 円
ちょうふチャリティーウォーク実行委員会	160,000 円	388,712 円
企業訪問（市民活動支援センター運営委員会）	0 円	80,000 円
指定寄附	15,000 円	105,216 円
リサイクル益金 （使用済み切手・カード・外国コイン・入れ歯）	201,310 円	255,993 円
えんがわカフェ	0 円	1,000 円
市民活動支援センター募金箱	16,597 円	0 円
講演等謝金（一部）		
合計	662,907 円	1,193,921 円

分析・課題

〇新型コロナウイルス感染拡大の影響による緊急事態宣言の発出を受け、申請受付を一時休止した。緊急事態宣言の解除後に申請受付期間を変更して再受付を行ったが、活動再開の見通しが立たない団体が多く、実際に申請があったのは６団体であった。（新規５団体）

〇本来であれば、資金面だけでなく、つながりづくりという点も積極的な支援を行い、団体同士の活発な交流を促したかったが、感染防止の観点から思うように取り組むことができなかった。

〇市民活動支援センター運営委員会で取り組む４つのテーマの１つ「えんがわファンドで市民活動支援と寄付文化の醸成を！」を掲げていたが、この取り組みも感染防止の観点から企業訪問できず、指定寄付を受けることができなかった。

〇コロナ禍における団体のつながりづくりをどのように活発化するかは大きな課題となっている。えんがわファンド交流会も実施できていないため、方法を工夫して交流が図れる機会創出に務めたい。また、指定寄付についても同様に、コロナ禍でもできる取組みを検討し、応援してくれる企業や団体を増やしていきたい。

第４　　ボランティア・ＮＰＯ・市民活動コーディネート

１　相談対応、ボランティア・市民活動支援

結果の概要

〇相談対応、活動支援、活動紹介などコーディネートを行い市民の主体的な活動を支援した。

実績等

（１）ボランティア団体登録状況

○情報登録団体　４２０団体（市民活動団体リスト掲載数）

○小島町コーナー登録団体　１３５団体

○市内を活動拠点とするボランティア団体で、調布駅周辺で活動する団体が、小島町コーナーに登録をしている。情報登録団体と重複している団体は多い。

登録団体は、年間通してボランティア活動室を定期利用でき、総合福祉センターの印刷機は無料で利用が可能。

定期利用団体は、活動室内の棚やメールボックスの利用が可能で、定期利用を希望する団体は、現在２０団体ほどである。

総合福祉センターの登録団体になるには、高齢者か障がい者団体であるか、そのいずれにも当てはまらない場合は、小島町コーナーの登録ボランティア団体であることが条件となる。

そのため、総合福祉センターの登録や、印刷機の無料利用を目的とし、ボランティア登録を希望する団体もある。

（２）ボランティア活動状況

保険加入者数　　３，５２０人

○個人で活動するボランティアは、登録制度をとっていない。

そのため、ボランティアの活動状況を把握するには、ボランティア保険の加入人数が実態に近いと考えられる。この中には、施設などでボランティアを長年継続して活動されている方など、コーディネート件数に含まれないボランティアも入る。１回のみの活動、あるいはサマーボランティアなど短期且つ限定的な活動も保険へ加入するため、スポットで活動した方もカウントできる。ただし、必ずしも調布で加入した方が調布で活動するとは限らず、若干の相違が生じると思われるが、反対に調布以外で保険加入した方が調布で活動される場合もあり、またそのようなケースは少数であり、誤差の範囲内であると考えると最も実態に近い数字といえる。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全面的にボランティアの受入れを休止する施設が多くあり、例年通りの活動ができなかった人が多かった。

今年度の活動者数は、昨年度に比べ２５パーセント減少した。

（３）相談業務及びコーディネート事業

結果の概要

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全面的にボランティアの受入れを休止する施設が多く、特に高齢者施設では、デイサービスでの日々の活動のサポートや、誕生会などのイベントに関わる、演奏披露のような活動もこの一年、ほとんどできない状況であった。

○社協事業に関わる活動についても、いきいき調理や高齢者会食などでの食事づくりやひだまりサロン活動など、長い期間活動できないものが多くあり、活動先として紹介しながらも、活動が開始できずに、待たせてしまう事が多かった。

○「子どもの居場所」での活動や、児童養護施設での見守り・学習支援などの活動は、受入れは継続していたため、活動希望者に紹介することができた数少ない施設である。

〇自宅でもできる作業として、切手整理の活動（仕分けや束ねなど）や、雑巾縫いなどに、多くの方が取り組んだ。

〇特別支援学校に通う子どもの送迎は、年間通して活動があった。
障がい児の放課後活動「放課後等デイサービス」で、送迎車両の運行を行っていない施設に通う子どもの送迎や、朝の登校時の付き添いなど、場面は様々である。

〇昨年度から比較して、寄付に関する問い合わせは急激に増加している。

実績等

①　相談件数

拠点	小島町コーナー	菊野台コーナー	富士見コーナー	染地コーナー	緑ヶ丘コーナー	西部コーナー	国領センター	合計
相談件数	3,072件	121件	204件	425件	367件	215件	(365)	4,404件 (4,769件)

※合計は市民活動支援センター窓口を除く

分析・課題

〇障がい児の送迎活動は、「放課後等デイサービス」利用時のほか、朝の登校時の見守りなどの場面での依頼に対応した。

〇今年度から特別支援学級に通う小学１・２年生が、条件に合えば移動支援サービスを受けられるようになったが、ボランティア依頼を取り下げるケースはなかった。

〇特別支援学校に通う児童生徒は、この移動支援サービスは利用できないままで、高校生になり、特別支援学校（府中市）までの通学は、移動距離が長くなり、ボランティアの支援に頼らざるを得ない状況が続いている。

〇移送サービスの利用内容に変更があり、令和３年度から知的障害児の利用ができなくなったということで、ボランティアに依頼せざるを得ないと相談があった。

〇ボランティア活動を希望する相談件数が、毎年減り続ける中、支援を必要としている方からの相談は多い。ボランティアガイダンスの参加者も以前に比べ減少してきている。
様々なアンケートでは、「機会があればボランティア活動に参加したい」と答える人は多い、という結果が出ていることから、「きっかけ」となるような仕掛けづくりなど、工夫する必要性を感じる。

〇長く活動を続けている団体のメンバーが高齢化してきている。また、メンバーが減りつつある中、同じ思いで活動できる新メンバーの確保は難しく、活動休止や解散を検討する団体が出てきている。今年は特に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動できない時期が長期間に渡り、活動目的の一つでもある「福祉まつり」が中止となった事で、解散を決断する団体もあった。

〇コロナ禍で活動の自粛、縮小が続く中、団体からの活動再開についての相談や、個人の新規活動参加への相談が普段より多かったコーナーもあった。

２　ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

（１）　ボランティアガイダンス

結果の概要

〇市民の社会参加を促しこれからの市民活動を担う人材を発掘することを目的に、はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいという方を対象に、ボランティアガイダンスをセンター及び各ブランチで開催した。

実績等

拠　点	開催日	参加者数	スタッフ	事業協力者
小島町コーナー	9 月 16 日（水）	5 人	2 人	0 人
	12 月 9 日（水）	2 人	2 人	0 人
富士見コーナー	10 月 24 日（土）	1 人	1 人	0 人
菊野台コーナー	8 月 25 日（火）	1 人	1 人	0 人
	3 月 23 日（火）	0 人	1 人	0 人
染地コーナー	9 月 26（土）	3 人	1 人	0 人
緑ヶ丘コーナー	11 月 21 日（土）	1 人	1 人	0 人
西部コーナー	6 月 26 日（金）	6 人	2 人	0 人
	1 月 23 日（土）	2 人	1 人	0 人
市民活動支援センター(国領)	7 月 27 日(月)	5 人	2 人	0 人
	2 月 16 日（火）	1 人	2 人	0 人

（小島町コーナー）

〇参加者が減少傾向にあったので、駅前の立地を活かし、総合福祉センター１階の窓に、ポスターを掲示するなど、館内に来所しない人へ向けた広報にも心がけた。

〇ガイダンスの参加者に、開催を何で知ったか、確認するようにしているが、８割ほどが「市報（ふくしの窓）を見て参加した」と回答。ふくしの窓や市報など、全戸配布による広報が有効ではあるが、毎月開催している｢ガイダンス｣は、市報にはなかなか掲載してもらえない状況にあるのが残念である。

〇団体、施設などのボランティア募集状況について、今年は特に募集状況の変化が激しく、日々変わる状況を各コーナーとどのように情報共有していく事ができるかが課題だと感じた。

（菊野台コーナー）

〇在宅勤務のため時間に余裕ができ、かねてより興味があったボランティア活動について知りたいとの理由から参加された。特技の英語を活かした活動を紹介した。

（富士見コーナー）

〇ボランティア登録グループの方が、新規会員募集の広報について相談のため参加。えんがわだ

より、ふくしの窓で会員募集を行うことになった。

（緑ケ丘コーナー）

〇市民活動支援センターからの紹介で１名の参加があった。感染症拡大の影響も推測されるが、関心を持ってくれる方が増えるよう、広報の工夫が必要。

（西部コーナー）

〇密にならないよう人数制限し、事前申し込み制にした。

〇６月は、３ヶ月ぶりのガイダンスであったため　通常より多くの参加があった。

〇定員人数を超えたため　別日にもガイダンスを行った。

〇「ふくしの窓」の反響が大きかった。コロナ禍で自宅で過ごす人が多く、丁寧に読まれていたようである。

〇フードバンク、子ども食堂に関心が高かった。

〇親子で参加出来るボランティアの希望が２組あった。

〇コロナ禍により　ボランティアを受け入れてくれる施設、活動している団体が少なく、紹介できる活動が制限された。

〇海外にルーツのある方の参加があった。

（染地コーナー）

〇参加した方は、すでに活動目的を持っていたので、本人の意思に寄り添い、希望を受け入れてくれそうな団体を紹介した。

（市民活動支援センター）

〇昨年度と比較して参加者が増加した。

新型コロナウイルスで変化した社会ニーズやボランティア活動の変化について説明を行った。

第５　ボランティア・ＮＰＯ・市民活動団体、企業や行政との協働

１　やあやあドリームオールスターズ（ＹＤＡＳ）

「第１８回こどもあそび博覧会」

<u>結果の概要</u>

〇新型コロナウィルスの感染拡大を受け、会場予定校である国領小学校との協議、実行委員主要メンバーによる協議のうえ、開催を見送ることを決めた。

<u>実績等</u>

開催中止となった。

<u>分析・課題</u>

〇次年度の開催に向けての動き出しが遅くならないようにしていきたい。

〇新型コロナウイルスの感染拡大状況に注視し、実施の可否の判断を早めに行っていきたい。

２　ちょうふチャリティーウォーク

結果の概要

〇新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、開催自体をどうするか実行委員会で議論を行ったが、こうした社会情勢下だからこそ、寄付文化の醸成を目的に、方法の工夫や感染防止対策を徹底して、実施をすることになった。平成２０年の初回から数えて第１２回目の実施。企画、運営は、引き続き実行委員会で行い、地域企業・団体との協働により実施した。

〇実行委員会で、実施方法を検討した結果、感染リスクをできるだけ下げるために、従来のような特定のウォーキングコースやイベント会場は設けず、参加者それぞれが好きな場所・距離を歩き、ＳＮＳなどでタグ付けして発信をして楽しむイベントとして企画した。
また、同時に市民活動支援センターから YouTube を活用したライブ配信を行い、チャリティーウォークの歴史やえんがわファンド助成団体の紹介、市内のおすすめスポットやセンター各コーナーから活動団体の様子を中継した。

〇新しい挑戦として開催直前まで企画を練ったため、適切な広報媒体の活用や広報期間を設けることができず、参加者は５０名と大幅に減少してしまった。

実績等

（１）ちょうふチャリティーウォークバーチャル

日　時	１０月３１日（土）午前１０時００分～午後４時		
コース・会場	・感染防止対策のため、特定のコース会場は設けずに実施した。 ・オンライン企画として YouTube でのライブ配信を市民活動支援センターのえんがわを舞台に実施した。		
参加者	５０人	参加費	大人　　　　５００円
当日スタッフ	２０人		高校生以下　１００円
主　催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会		
共　催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		
後　援	調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市体育協会		
チャリティー金額	１６０，０００円（えんがわファンドへ）		

（２）プレイベント

〇昨年度実施したプレイベントは、感染防止の観点から実施しなかった。

分析・課題

〇オンラインでのウォーキングイベントの開催がまだ少ない中で、実行委員会を中心とした地域のつながりの力で、ほとんど費用をかけずにイベント開催できた経験は非常に大きく、次回以降の糧となった。

〇次年度以降も感染防止対策を講じながらのイベント開催が想定されるため、今回実施した経験を活かしたい。一方で、企画に時間がかかり、必要な広報が行えなかった点を課題として、改

善する必要がある。

〇えんがわファンド助成先団体の紹介配信は実施できたが、従来のような実行委員会との連携やサポートといった関係性構築まで至れなかったため、再検討が必要である。

３　ちょうふこども協力隊

結果の概要

〇新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年度は中止となったが、今回は参加者を限定し、感染防止対策を徹底した上で実施した。

実績等

（１）会議

内　容	事務局会議	実施回数	４回
メンバー	ちょうふこども協力隊役員		
内　容	全体会議	実施回数	３回
メンバー	ちょうふこども協力隊実行委員会　１０名		

（２）プログラム

名称	チャレンジ！ちょうふこども協力隊		
開催日	１１月２３日（月・祝）午後１時～２時）		
会　場	京王線仙川駅周辺、市民プラザあくろす ２階 会議室１		
参加者数	１２人		
内　容	・仙川駅周辺 市民活動団体グッドモーニング調布！の協力で、ゴミ拾いや緑化活動、養蜂活動の体験を行った。 ・市民プラザあくろす会議室１ 市民活動団体 Otoeuta の協力で、絵本スイミーのストーリーに音や表現を加える活動体験を行った。		
協　力	協力団体 ２団体（３人）		
主　催	ちょうふこども協力隊実行委員会	共催	市民活動支援センター

分析・課題

〇ちょうふこども協力隊が市民ならではの柔軟な発想で自立した組織運営ができるよう、ちょうふこども協力隊と市民活動支援センターとの関わりを整理する必要がある。

４　調布市市民プラザあくろすでの連携

結果の概要

〇調布市市民プラザあくろすにある、男女共同参画推進センター、産業労働支援センター、指定管理者㈱セイウンと連携し、あくろす全体での取り組みの調整や情報共有を行った。

実績等

〇あくろすの３センターと指定管理者で構成される「あくろす連絡会議」（毎月１回）に出席し、情報交換を行った。会議とは別に必要に応じて、情報交換を行った。

〇あくろす並びに商業施設「コクティー」と合同で、２か月に１回、施設周辺の清掃活動に参加した。

〇６月末から７月の都知事選挙における期日前投票所の設置について、指定管理者および選挙管理委員会と調整を行った。

〇利用者アンケートの結果について報告し、必要な改善や修繕について依頼し協議を行った。

分析・課題

〇利用者アンケート調査に加え、施設の老朽化も目立ち、陳情や協議は行っているが、調整に時間を要している。すでに生産されていない部品などもあるため、いつ何を改善・修繕するか期限を決めて調整を進めたい。

５　北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターとの連携

結果の概要

〇ブロック内の他地区センターと事業共催することにより、連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的で多彩な事業を展開することを目的として平成１２年度から実施。

〇昨年度、中止となった企画の一部だった食物アレルギーについて、災害時の避難所などで必要な配慮や当事者が日ごろどのような生きづらさを持っているかについて、こまえアレルギーの会の協力でオンライン講座を実施し、理解を深めた。

実績等

第２部のP53参照

６　その他

結果の概要

〇様々な団体の活動に参加・協力をし、連携を深めた。

実績等

日時	団体名	内容
１０月２２日（木） １０月２４日（土）	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	１・２年生授業「ボランティア論」の講義及び市民活動体験先コーディネート

１０月２５日(日) １１月　５日(木)		
５月１２日（火）～ １０月３１日（土）	調布市商工会青年部	マスクバンクプロジェクトへの協力 センター及び各コーナーにマスク回収ボックスを設置し、マスクの寄付の受付
１２月１９日(土)	国領子ども食堂わいわい フードパントリー	フードパントリーの見学と手伝い

第６　人材育成、学習支援

１　出前ボランティア講座の実施

結果の概要

○小・中学校で進められている「総合的な学習の時間」、高等学校での「人間と社会」の研修などに対応した。

実績等

出前回数	１３回	出前先	小学校　１０回 中学校　1回 高等学校　2回 関係機関　0回
受講生	延べ１，０７９人		
派遣スタッフ	延べ　２９人		
開催講座数	３１講座 （内訳：手話１、視覚障がい者ガイド7、点字８、車いす１５）		

分析・課題

○今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、出前講座実施に向けての「出前講座感染予防ガイドライン」を作成し、学校に配布し、協力をお願いした。

○学校を訪問することによる感染のリスクを懸念し、今年度一年間の活動を休止するスタッフが多くいた。また、手話の出前講座では、通訳者派遣を委託している「調布市登録手話通訳者の会」と協議し、一年間、手話の出前講座は、実施しないことになった。

○このような状況の中で、講和と体験を交えた、例年通りの形での実施は困難となり、学校とは打ち合わせを重ね、実施を見送ったケースがあった。

○児童生徒同士が密になりやすい体験はできるだけ避け、当事者からのメッセージを伝える講和のみとする形式で、講座を実施するケースを多く取り入れた。

○体験を希望する学校に向けては、事前に教員に対する講座を実施し、それを受けた教員の学校には、機材を貸し出し、教員が指導する下での講座の実施となった。

○新しい試みとして、１学期に実施した手話講座では、児童たちは事前に調べ学習をして、その中

で調べられなかったこと、聞こえない人に聞いてみたいことなどの質問を提出してもらった。その質問に5名の聞こえない方にアンケートを実施し、それをまとめたものを返す、という方法で実施した。

この時聞こえないスタッフの中には、直接手話で児童に語り掛けたい、ということで、「ビデオメッセージ」にして、回答を届けたケースもあった。

○タブレットの普及は年度途中から、ということもあり、リモートによる授業の実施はどこの学校でも実施することができなかった。

次年度は、なるべく機会多く出前講座が実施できるよう、リモートによる講座の実施など、新たな試みを取り入れたいと考えている。

２　都立高等学校における教育活動支援業務の実施

結果の概要

○平成１９年度からは、教科「奉仕」の授業の一環として、また平成２８年度からは、それを発展的に統合した新教科「人間と社会」という必履修教科の授業として、今年度からは、「総合的な探求の時間」の取り組みとして、出前講座を実施している。

今年度から、高校1年生は2年生で個々にテーマを設定し研究授業を行う準備として、この出前講座を受講する。

実績等

（１）実施内容

講演会：テーマ「障がい理解について　～視覚障がい当事者からのメッセージ～」

（２）会場校・対象者

・都立調布北高等学校　第１学年　全６クラス　２３８名

（３）実施状況

従来、１学年６クラスを対象に手話、車いすの講座を実施し、点字、ガイドヘルプ講座については、どちらか１講座を選択する方法で実施していたが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座の形式に変更し、１年生全員を対象に、講演会形式で実施した。

分析・課題

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、三密を避けるため、担当教員と何回か打合せの機会をもった。その結果、体験は見送ることとし、１年生全員を対象とした講演会を実施した。

○次年度は、従来のような体験ができる講座を希望している。三密を回避しながら、どのように実施できるかが課題である。

３　調布サマーボランティア２０２０（調布 STAY HOME ボランティア）

結果の概要

〇東京ボランティア・市民活動センターが実施する「夏の体験ボランティア」キャンペーンは中止となった。

〇調布市独自の取り組みとして「調布 STAY HOME ボランティア」を実施。寄付を中心としたボランティア体験プログラムを行った。

〇体験者と寄付を受ける団体・施設が直接対面することはなく、センターを介して寄付物品を渡した。

〇調布 STAY HOME ボランティア活動報告 BOOk を作成し、体験者、団体・施設両者のメッセージを掲載。団体・施設は体験者からのメッセージを通じて体験者の想いを知ることができ、体験者は自身の活動を振り返る機会となった。

実績等

<table>
<tr><td rowspan="2">申込み</td><td>個別受付</td><td colspan="2">計１８８人　令和２年７月１日（水）～９月２０日（水）
午前９時～午後５時</td></tr>
<tr><td>内　容</td><td colspan="2">・申込書提出
・寄付物品受付</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参加者人数及び活動別内訳</td><td>参加者総数</td><td colspan="2">１８８人（　男性　５人　　女性　１８３人）</td></tr>
<tr><td>年齢層内訳</td><td colspan="2">中学生　１１０人
高校生　９人
大学生(短大含む)　５３人
社会人　１６人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">協力団体・施設</td><td rowspan="5">２５団体</td><td colspan="2">内　訳</td></tr>
<tr><td>高齢者関係</td><td>１団体　１プログラム</td></tr>
<tr><td>障がい者（児）関係</td><td>３団体　３プログラム</td></tr>
<tr><td>子ども関係</td><td>１０団体　１０プログラム</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>１１団体　１１プログラム</td></tr>
<tr><td>体験期間</td><td>ボランティア体験</td><td colspan="2">令和２年７月１日（水）～９月３０日（水）午前９時～午後５時</td></tr>
</table>

分析・課題

〇特定の中学・高校からの参加者が多く、例年のサマーボランティアと比較すると、参加者傾向に偏りが見られた。

〇全体の６９％が調布市外からの参加者であった。
〇「今後もボランティア・市民活動についてのご連絡をしても良いか」という質問をしたところ、「してもよい」と回答した割合は８２％であった。
〇４名の参加者が調布 STAYHOME ボランティアをきっかけに、実際のボランティア活動を始めた。
〇寄付物品の中には汚れ、破損がある場合があった。寄付受付の条件について事前周知が必要であった。

第７　職員の派遣・研修　他

１　他団体等への職員派遣

実績等

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
４月３０日(木)	事務局連絡会議・夏ボラ担当者会議・災害Ｖｏ担当者会議（書面開催）	東京ボランティア・市民活動センター
５月２１日(木)	東京Ｄ＆Ｉプロジェクト運営連絡会（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
６月１８日(木)	センター長会議（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
７月２１日(火)	ボランティア保険説明会（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
７月３１日(金)	事務局連絡会議（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
８月２４日(月)	男女共同参画推進センター運営委員会	男女共同参画推進センター
９月１１日(金)	拡大センター長会議（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
９月２５日(金)	東ボラＤ＆Ｉセミナー（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
１０月１６日(金)	事務局連絡会議・夏ボラ担当者会議（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
１０月１９日(木)	東ボラＤ＆Ｉセミナー（Ｚｏｏm会議）	東京ボランティア・市民活動センター
１１月１９日(木)	男女共同参画推進センター運営委員会	男女共同参画推進センター
１２月　１日（火）	インターネット講習会	協働推進課
１２月　８日(火)	インターネット講習会	協働推進課
１２月１４日（月）	看護対象論　授業協力（Ｚｏｏm）	東京慈恵医科大学看護学科

１２月１９日(土)	看護対象論　授業協力(Ｚｏｏｍ)	東京慈恵医科大学看護学科
２月１８日(木)	ボランティア保険説明会 (Ｚｏｏｍ会議)	東京ボランティア・市民活動センター
２月１８日(木)	センター長会議(Ｚｏｏｍ会議)	東京ボランティア・市民活動センター
３月１６日(火)	東京Ｄ＆Ｉプロジェクト運営連絡会 (Ｚｏｏｍ会議)	東京ボランティア・市民活動センター
３月１７日(水)	７市市民活動連絡会(Ｚｏｏｍ会議)	７市連絡会
３月２２日(月)	男女共同参画推進センター運営委員会	男女共同参画推進センター

２　職員研修

〇相談支援などのレベルアップを図るため、それぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加した。

実績等

会議・講座名称	参加人数	主催団体
東ボラ新任研修－１	２	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾－１	１	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修－２	２	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾－２	１	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修－３	２	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾－３	１	東京ボランティア・市民活動センター
ＩＣＴ東京フォーラム	１	ＩＣＴ東京フォーラム実行委員会
オンラインで学ぶアレルギー対応の炊き出し	２	北多摩南部ブロック研修
東ボラ新任研修－４	２	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修－５	２	東京ボランティア・市民活動センター
コロナ禍に福祉避難所について考える	１	東京都地域公益活動推進協議会
災害ＶＣオンラインセミナー	１	東京ボランティア・市民活動センター
普通救急救命講習会	４	調布社協
参加人数合計	２２	

３　視察対応

〇他地域からのセンター見学及び研修依頼に随時対応した。

実績等

日　程	団　体　名　等
４月　３日（金）	調布社協　４月採用新任職員見学研修受け入れ

７月　３日（金）	調布社協　７月採用新任職員見学研修受け入れ
７月２１日（火）	こころセンター　ミント　利用者職場見学
９月　９日（水）	東京都生活文化局　職員見学

第８　調査・研究

結果の概要

〇市民活動に関する調査【団体編】と【個人編】を実施した。【団体編】は、センターホームページに登録のある市民活動団体に加え、市内に登記のあるＮＰＯ法人に調査票を送付。【個人編】は調布市協働推進課の協力で、市民から５００余人を無作為抽出し、調査票を送付。紙媒体での調査票回収に加え、センターホームページからの回答が行えるフォームを用意し、回収した。

分析・課題

〇アンケートの回答期限は年度中に終了しているが、分析は次年度となっている。次年度は次の中長期運営方針の策定に着手する１年でもあるため、調査結果を有効活用できるようにしたい。

第９　災害対策・支援（重点項目）

１　調布市における災害ボランティアセンターの設置・運営

結果の概要

〇調布市と調布社協との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」に基づき、検討を進め必要があったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い十分な協議を実施できなかった。

〇協定締結から１４年の年数がたった調布市と調布社協との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」についての見直し作業を進めたが、新たな協定書による再締結まで進めることができなかった。

〇調布市が実施したコロナ禍における避難所開設訓練に見学参加を行った。
国領小、第三小での訓練に職員３が名参加した。

分析・課題

〇災害ボランティアセンターの設置・運営については、過去の経験を活かし、水害、地震などの自然災害発生を想定のうえ、より具体的な内容になるよう、さらに調布市関係部署と協議を進め、協定書の修正を行い、再締結が必要になるとともに、「設置・運営マニュアル」の作成が急務となっている。

〇災害時に災害ボランティアセンター運営に協力していただける市民、企業に向け、災害時ボランティア講座などの実施に向け準備を進めていきたい。

２　調布市災害ボランティアセンター
（旧調布市被災者支援ボランティアセンター）のサイト運営

結果の概要

○調布市被災者支援ボランティアセンターは、東日本大震災後設置された味の素スタジアムの避難所で、ボランティアと共に避難生活をサポートすることを目的に設置され、現在もサイト上やフェイスブックで情報を交換している。

○災害ボランティア講座など、災害にかかわるイベント情報なども情報提供を行った。

○Twitter、Facebook ページにて復興支援情報の拡散を行い、市民同士の交流となった。

○当サイトの脆弱性への対応として、サイト運営者と協議の上、年間２回のセキュリティーチェックを実施するとともに、外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

実績等

○セキュリティーチェックを年間２回実施した。

○外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

分析・課題

○災害時にすぐに運用が開始できるように、最低限のサイトの維持管理は行っている。必要な問い合わせ対応などは市民活動支援センターホームページで対応する。

○サイトの脆弱性ついては、サイトの安全性を担保する必要性から、常に変化する課題へ対応するため、年間で複数回のチェック及び更新作業を継続的に行っていく必要がある。

○当該サイトを活用し、災害に関する情報提供の発信を進めていく。

３　災害ボランティア養成講座の開催

結果の概要

○今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し講座の開催を断念した。

実績等

○開催できなかったため実績はなし。

分析・課題

○調布における災害発生時に活動できる人材の発掘・育成につなげていくためにも、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮しつつ、開催していきたい。

○様々な場面を想定した災害ボランティア講座などの開催の検討が必要。

４　調布市総合防災訓練への参加

結果の概要

○調布市総合防災安全課と連携し、調布市総合防災訓練の会場に「災害ボランティアセンター」の設置を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。

分析・課題

〇今回も中止となったが、今後も講座の受講生も含め、多くの市民の方々に参加していただける工夫が必要。

〇実際に立ち上がった災害ＶＣの経験を活かした訓練内容になるように課題の整理が必要。

〇頻発する自然災害に備え総合防災訓練をより実践的な動きとつなげていくためにも、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営マニュアルの準備を急ぐ必要がある。

５　北多摩南部ブロックボランティアセンター連絡会の取り組み

（１）共催事業実施内容

名　称	オンラインで学ぶアレルギー対応の炊き出し
日　時	令和２年１１月２６日（木）午後２時～午後４時
会　場	調布市市民活動支援センター
内　容	こまえアレルギーの会の協力で、災害時の避難所などにおけるアレルギー対応の炊き出しについて学習した。

（２）北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センター担当者連絡会

実施回数	２回
参 加 者	小金井ボランティア・市民活動センター、府中ボランティアセンター、みたかボランティアセンター、調布市市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定 NPO 法人難民を助ける会［AAR JAPAN］
内　容	共催事業内容の検討や各センターの情報交換など

分析・課題

〇新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、実施回数は減少したが、昨年度中止となった災害時の「アレルギー」対応について講座を実施した。一方で災害時の連携などについての具体的な議論は実施ができていない中、担当者の変更もあったため、改めて連携や連絡調整について確認が必要。